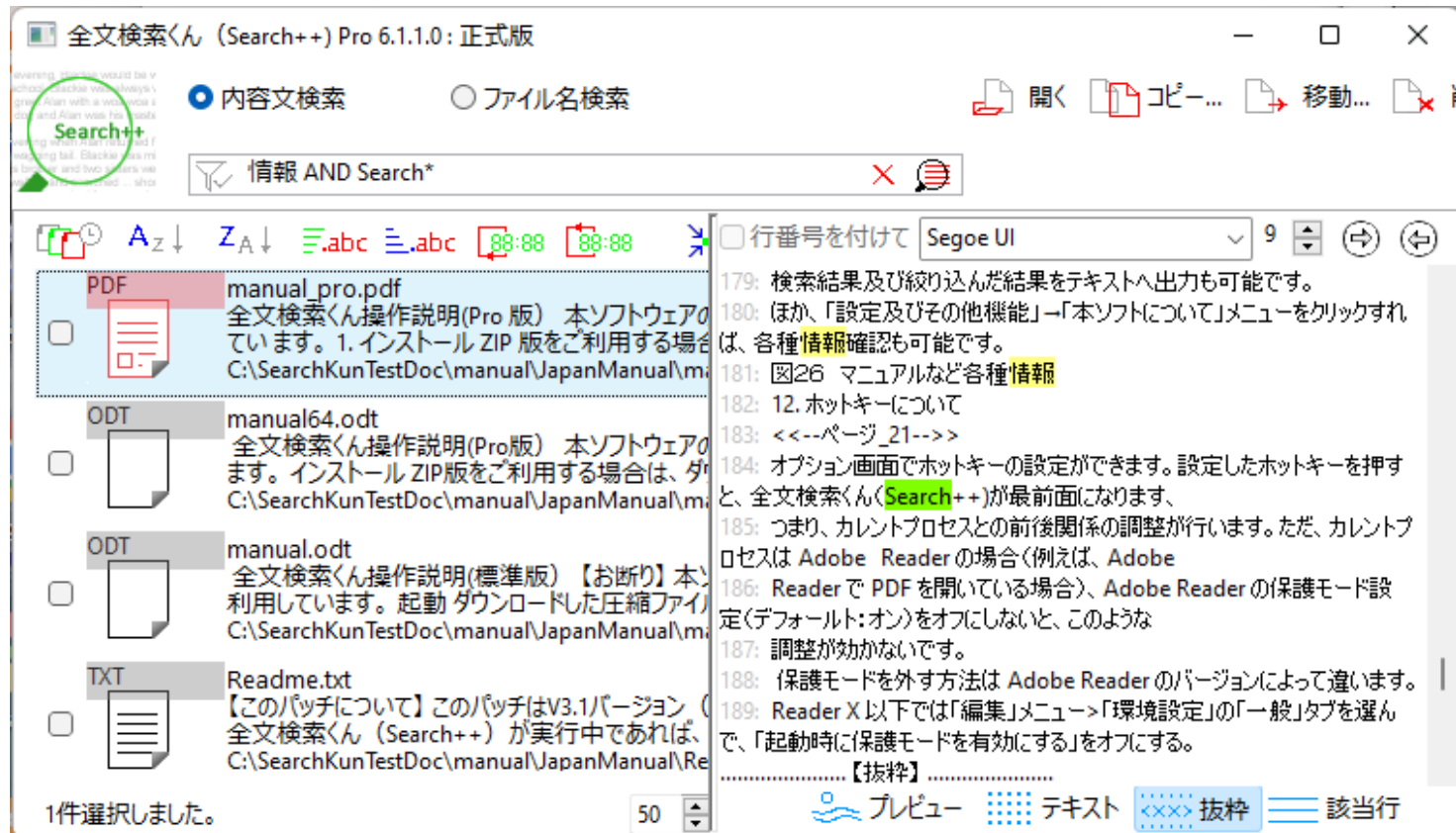


# 全文検索くん操作説明(Pro 版)



本ソフトウェアの最新版は 6.1.1.0 ですが、この説明書に変更のない画面について、旧バージョンのイメージをそのまま利用しています。

## 1. インストール

6.1.0.10 は以前のバージョンと比べると、最新のウェブ技術を利用しているので、ご利用 Windows のバージョンは Windows 7 以降（Windows 7 を含む）になります。XP と Vista について、標準版をご利用ください。後、Pro 版は 64 ビット OS しかご利用できないので、予めご了承ください。

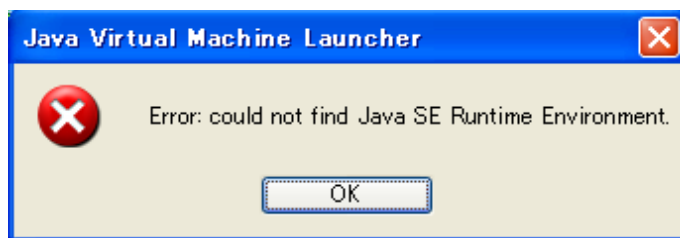
ZIP 版をご利用する場合は、ダウンロードした ZIP ファイルを指定したフォルダーに解凍します、インストールフォルダーについて、C:\Program Files, C:\Program Files(X86)以外 にしてください、上記フォルダーに入れると、OS の権限管理で動かなくなる可能性があります。（良い例：C:\Searchplusplus または D:\SearchPlusPlus）

解凍が終わったら、本体の Searchplusplus.exe を実行してください。

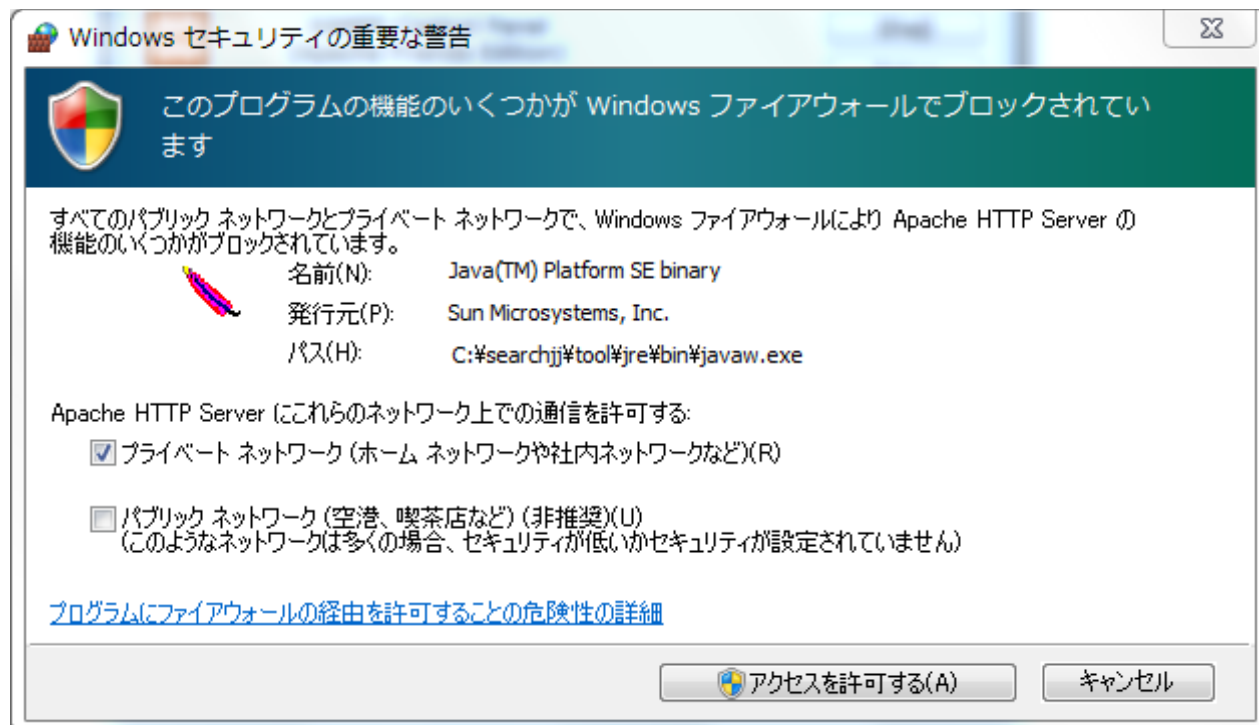
本ツールの複数インスタンスの同時実行は不可です。複数起動させたら、下記のメッセージが表示します。（この機能を実現させるため、本ツールは初回起動時ローカル PC に開いているポートを探して、設定ファイルに設定します。初回の実行でポートを探すため、時間がかかることがあります）

Zip ファイルを展開する際、“展開されたファイルがありません”のようなエラーメッセージが出た場合或は Zip 展開した後 SearchPlusPlus.exe を起動させた際、下記のようなエラーメッセージが出た場合、OS のコード設定が不正であることが考えられます。OS のコードを日本語に設定し直すか(<http://www.searchplusplus.jp/contact.html> の Q7 をご参照)、全文検索くんのインストールフォルダー名に日本語を使用しないことによって、問題解決できます。（例えば：c:\¥Searchplusplus または d:\¥searchplusplus にインストールする）

ZIP ファイルの解凍には、OS の既存機能を利用するか、7Zip などフリーツールを利用するかをしてください。



v4.0.0.8 から、HTTP サーバ機能を追加しましたので、OS から下記のような警告が出されましたが、許可してください。



導入設定画面が下記のように表示します。

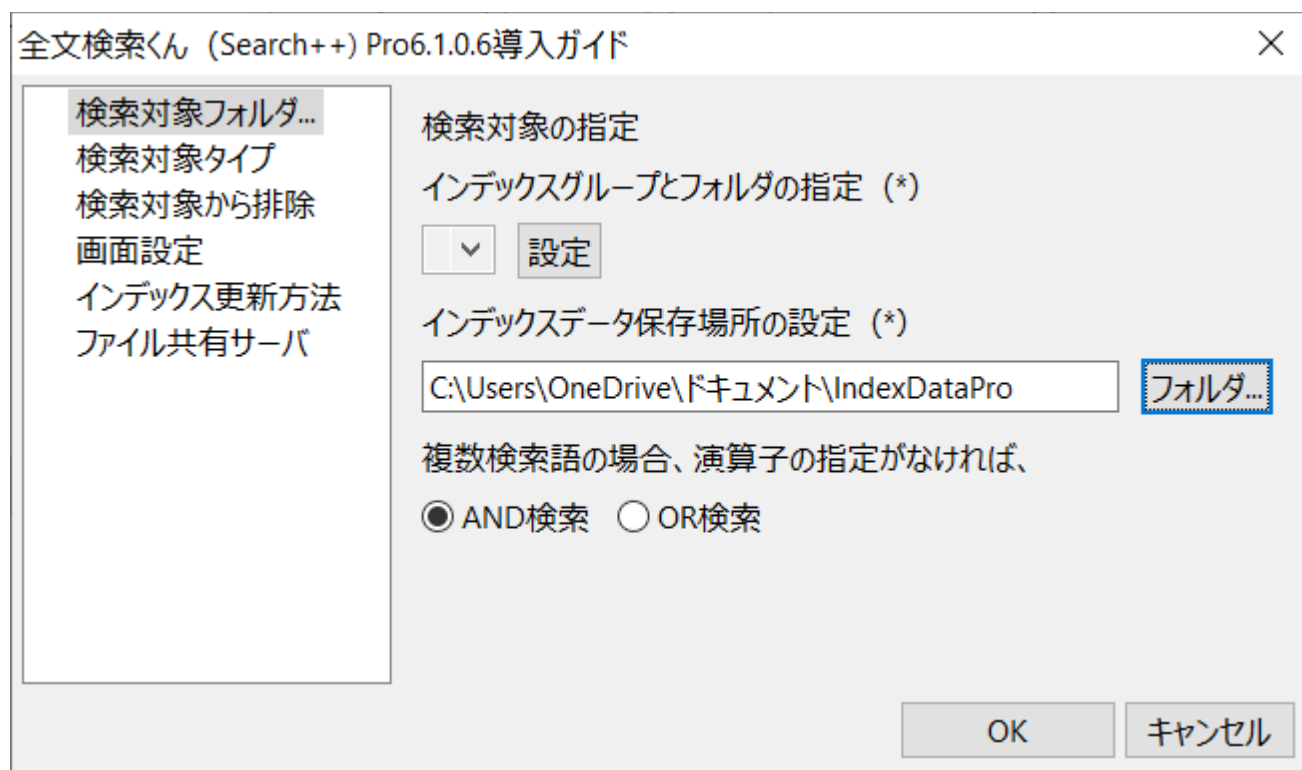


図1 オプション(検索データ)設定画面

検索対象として複数フォルダーを指定する場合は、上記画面にある「設定」ボタンを押して、図2のように、対象フォルダーの左側にあるチェックボックスにチェックを入れてください。サブフォルダーを検索対象から排除する場合、該当サブフォルダのチェックを外してください。図2で複数インデックスデータの作成が可能ですが、「インデックス名の指定」に名称を入力して、エンターキーを押せば、タブのタイトルに名称が表示され、インデックスグループ名の指定になります。画面の右上の「追加」、「削除」、「クリア」ボタンを押せば、タブの追加、削除及び設定のクリアができます。設定が終わったら、「OK」ボタンを押して、インデックスの作成が始まります。

インデックスを一時的に除外する場合、該当タブの上の「退避」をクリックしてください。退避したインデックスを復活するには、同じく「復活」ボタンをクリックしてください。該当インデックスを再作成には「再作成」にチェック入れてください。

検索対象フォルダの指定は、OSのフォルダツリーから Drag & Drop するかテキストボックスに直接入力するかで可能です。

上記設定が終わって、インデックスデータが作成されたら、図3のようにメイン画面でインデックスグループリストが表示され、グループリストを切り替えるが可能です。

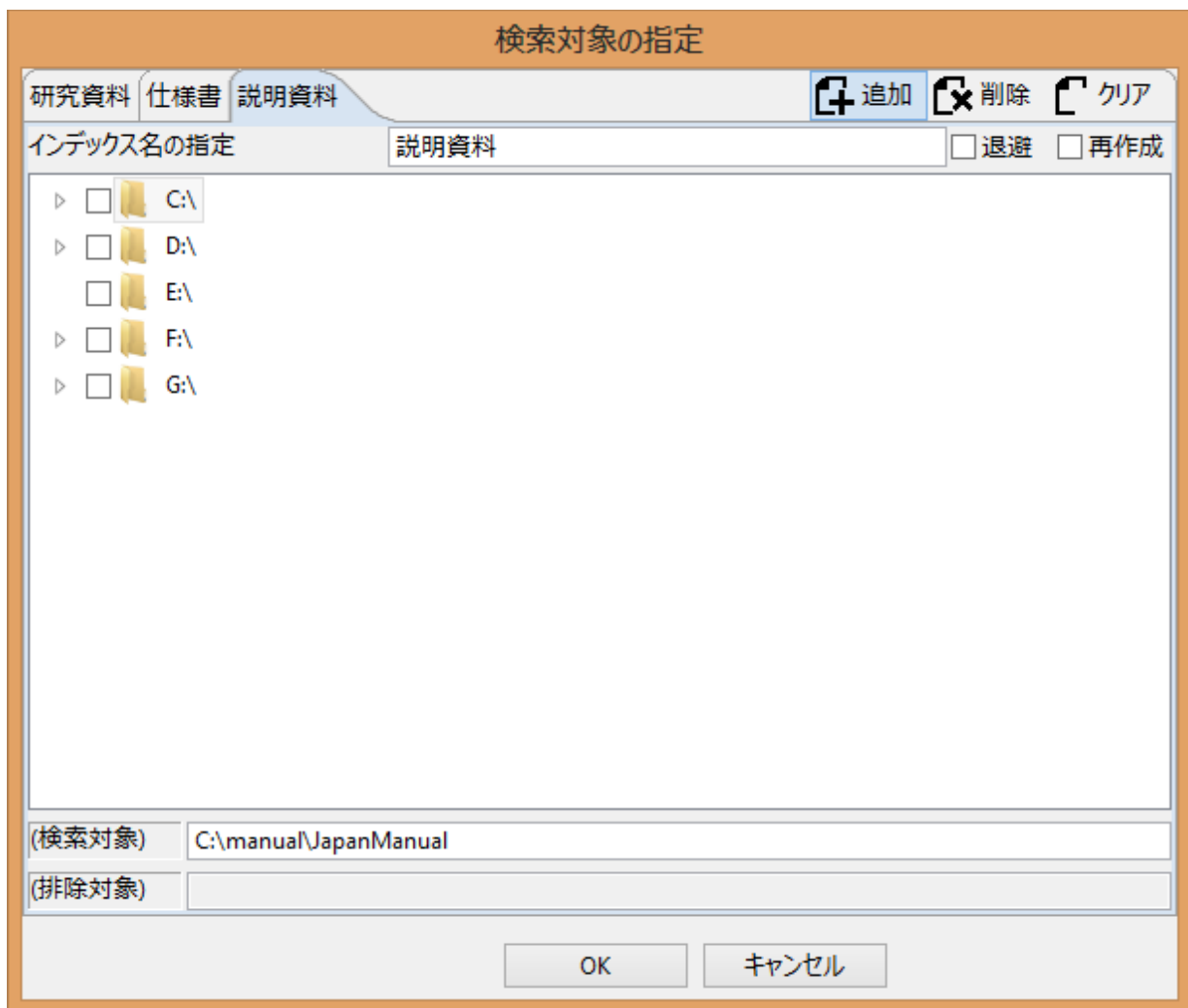


図2 チェックを入れる・外すによって検索対象フォルダーを指定・排除

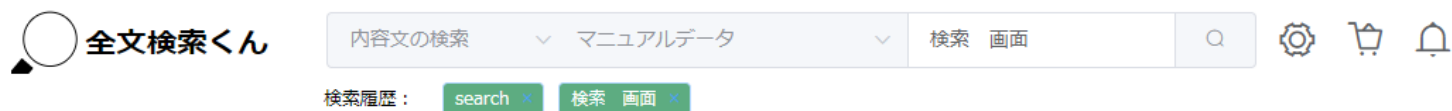


図3 メイン画面で検索対象の切り替えが可能

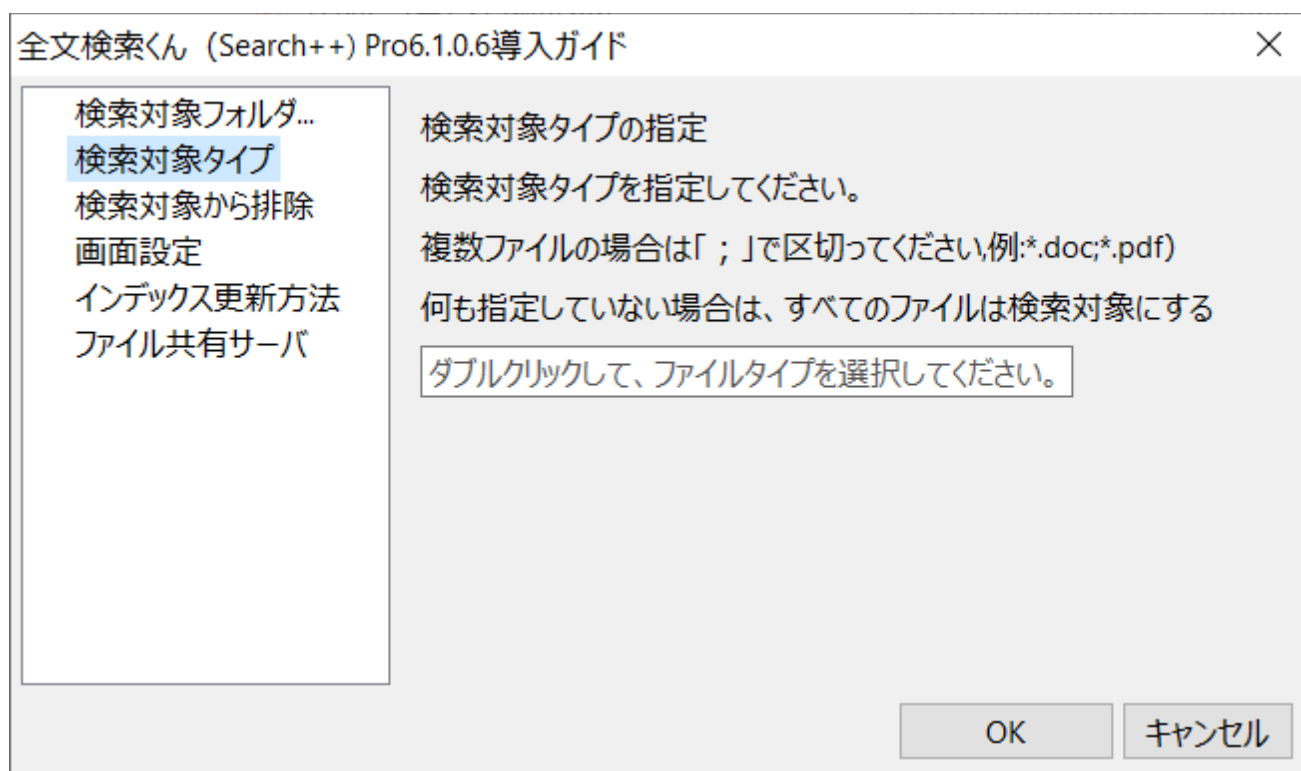


図4 検索対象タイプの指定

検索対象ファイルを指定する場合、図4の画面で拡張子を検索対象ファイルテキストボックスに入れてください、複数タイプのファイルを検索するには、「;」で区切ってください。（例：\*.doc;\*.pdf）、何も入力していない場合、すべてのファイルは検索対象になります。

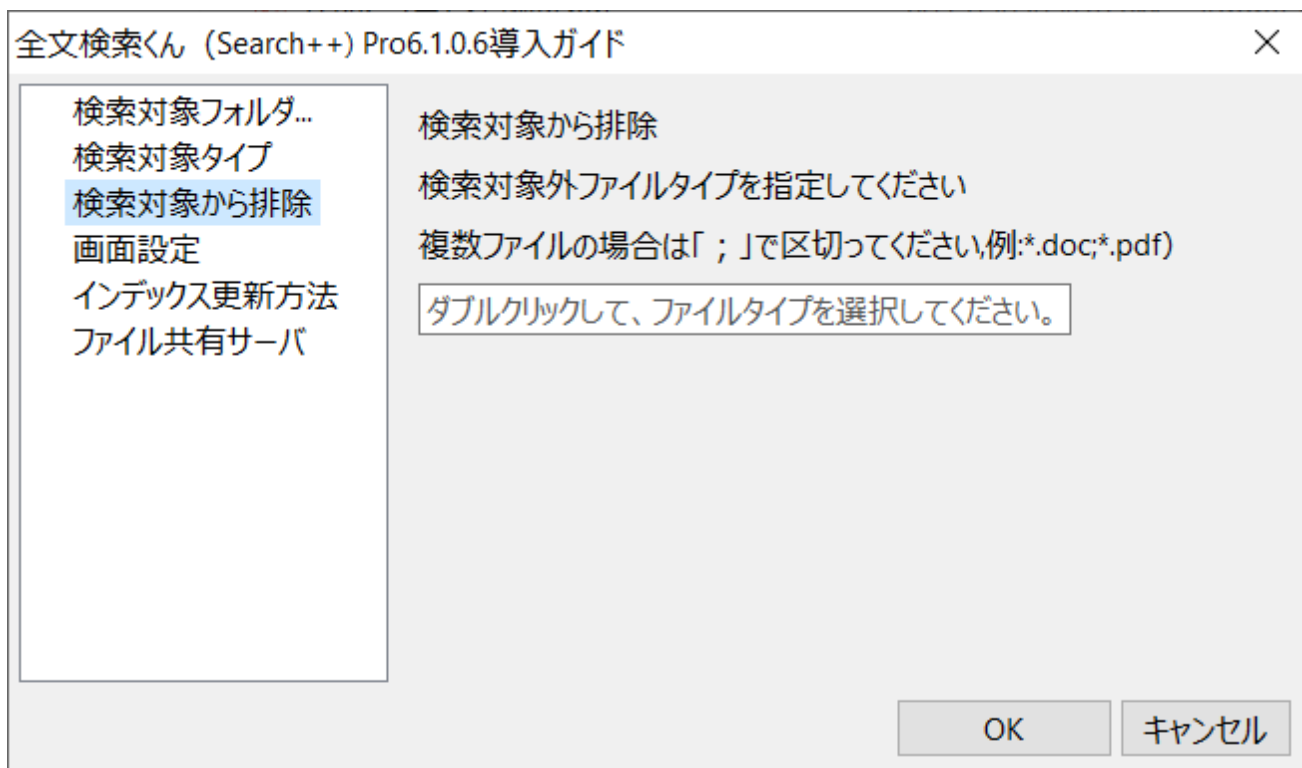


図 5 検索対象外ファイルの指定

一方、その下のテキストボックスに検索対象外ファイルの指定ができます。指定方法は上記と同じですが、何も指定していない場合は、除外対象がないことになります、なお、除外対象にフルパスを指定すると該当ファイルが除外されます。

Windows システムフォルダ、Windows システムの Temp フォルダはシステムフォルダなので、内容文検索の対象から自動除外しました。

本ツールの仕組みとして、インデックスを作成してから検索することになりますが、インデックスデータ保存場所のデフォルトはカレントユーザの Documents フォルダ下の IndexDataPro フォルダーになりますが、図 1 で「インデックスデータ保存場所の指定」フォルダボタンを押せば、任意の場所を指定することが可能です。

「オプション設定」画面で「画面設定」をクリックしたら、検索画面を呼び出すホットキーの設定、抜粋表示の行数設定などの指定ができますし、画面のカラーテーマに対して、白、黒タイプも選びます、見やすいほうに設定すれば結構です。

## 2. お知らせ画面

下記画面のように、30 日間の試用期間があります。試用期間内下記お知らせ画面が表示して、全機能の試用ができます。ライセンス登録を行うと、この画面が消えます。

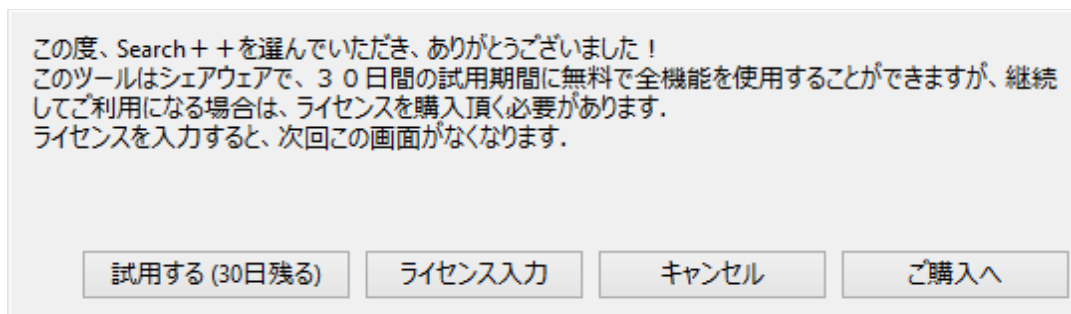


図 6 試用版のお知らせ画面

## 3. メイン画面

メイン画面に検索ワードを入力して検索ボタンを押すと、検索を行います。検索ワードの履歴が残るので、入力すると、一致するものがリストに表示されます。リストの下に件数、ページサイズとページリストが表示されます。ページサイズ、つまり、一ページに表示する件数を変えるとページリストが変わります。ページ番号および「前へ」、「次へ」をクリックするとページが遷移します。ご利用 PC がインターネット接続している場合、検索の時類似語も同時に検索します。検索語の類似語が必ずあるとは限らないので、類似語がない場合は、何も表示しないです。類似語をクリックすると、該当する検索語を入れ替えて検索します。



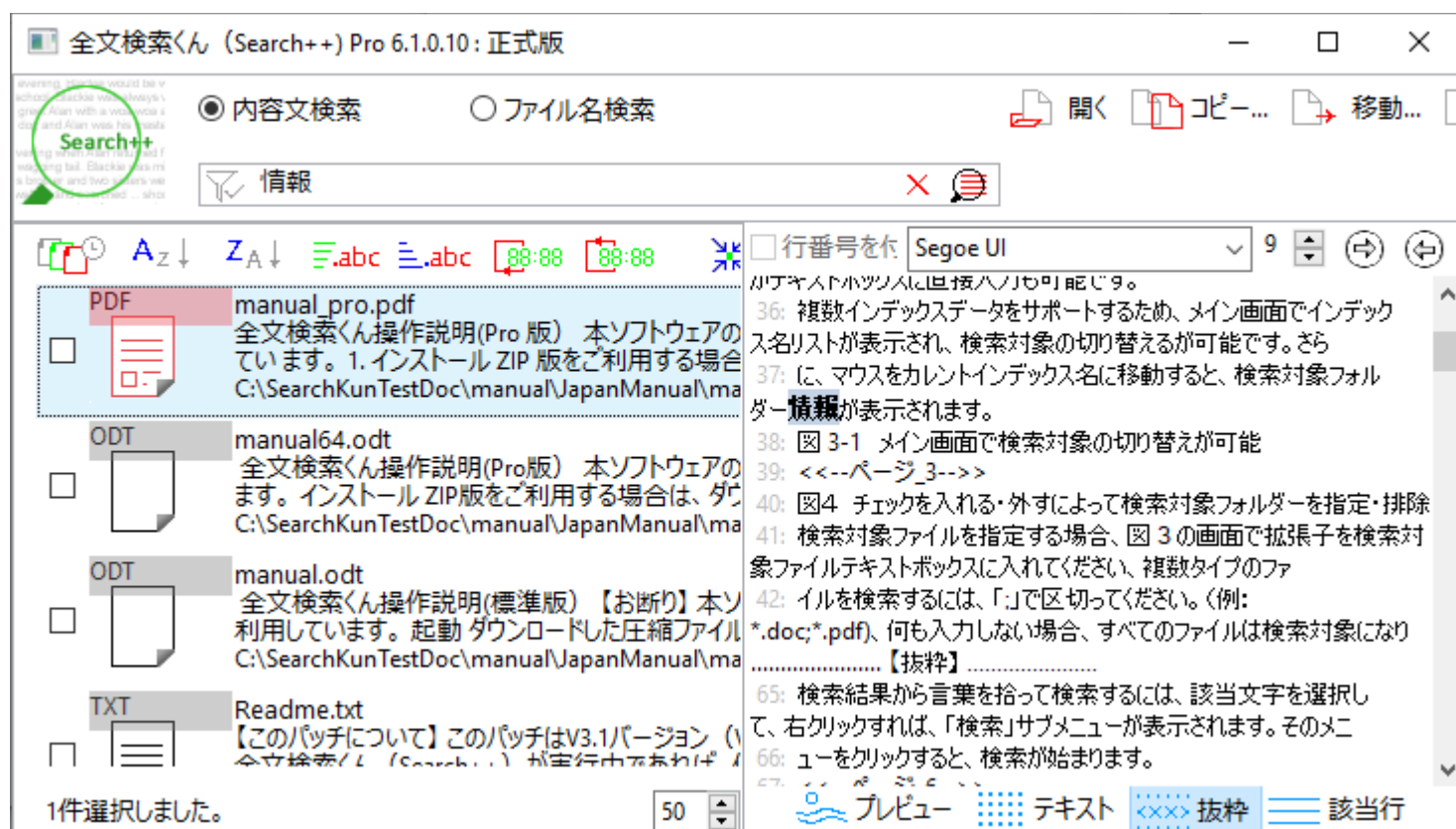


図7 メイン画面

検索対象フォルダーに対してのインデックスデータがなければ、下記のメッセージが表示されます。その場合、インデックスを作成してから検索を行います。

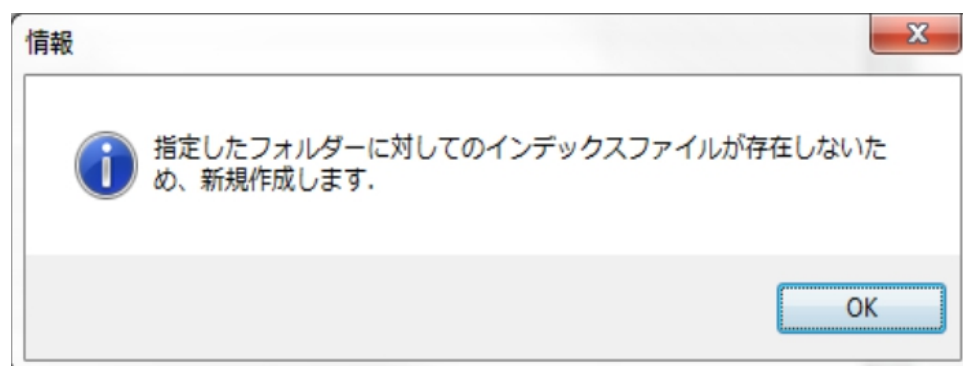


図8 インデックスデータ作成メッセージ



検索結果から言葉を拾って検索するには、該当文字を選択して、右クリックすれば、「検索」サブメニューが表示されます。そのメニューをクリックすると、検索が始まります。

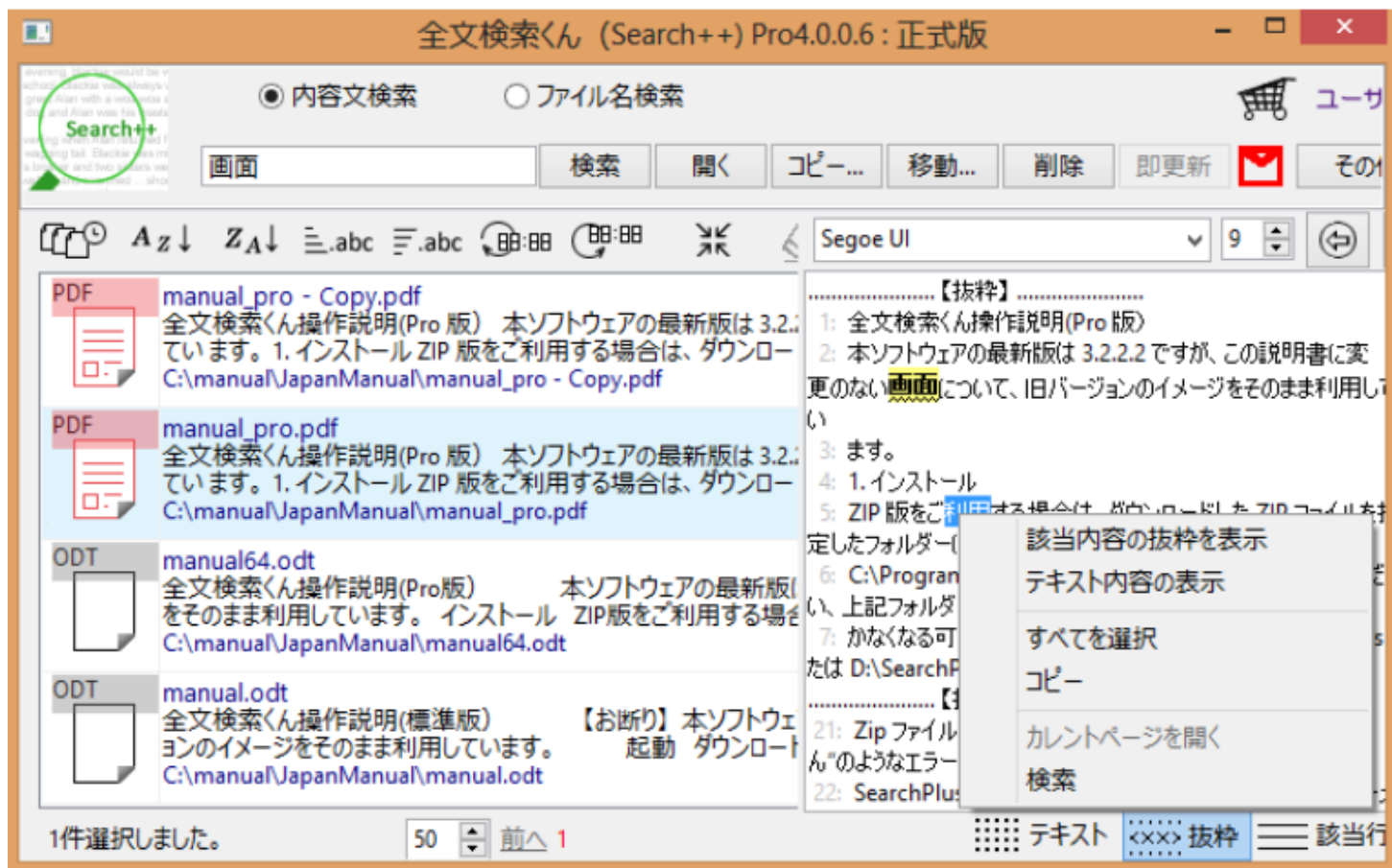


図 8 - 1 検索結果からサーチキーを指定

#### 4. 検索結果画面

検索結果画面は以下です。検索テキストボックスの下にある「ファイル名」、「拡張子名」、「作成時間」などボタンをクリックすれば、

検索結果リストをソートすることが可能です。ソートボタンの隣に、フィルター機能があります、ファイルの拡張子および作成時間でフィルターをかけることが可能です。その右にインデックスプルダウンリストがあります、これで、検索対象を指定することが可能です。さらに、インデックスプルダウンリストの右側に数字がありますが、それを変更すると、検索結果リストの高さを調整することができます。

左下にページサイズ、ページ番号、「前へ」、「次へ」などが表示されて、ページサイズを変えたり、ページ遷移することが可能です。右側のテキスト表示領域に対して、「行番号をつけて表示する」チェックボックスがあり、チェックを入れる、行番号を表示することに

なります。

テキスト表示領域のフォントサイズを変えるには、右上ツールバーのスピンコントロールの上下ボタンを押してください。

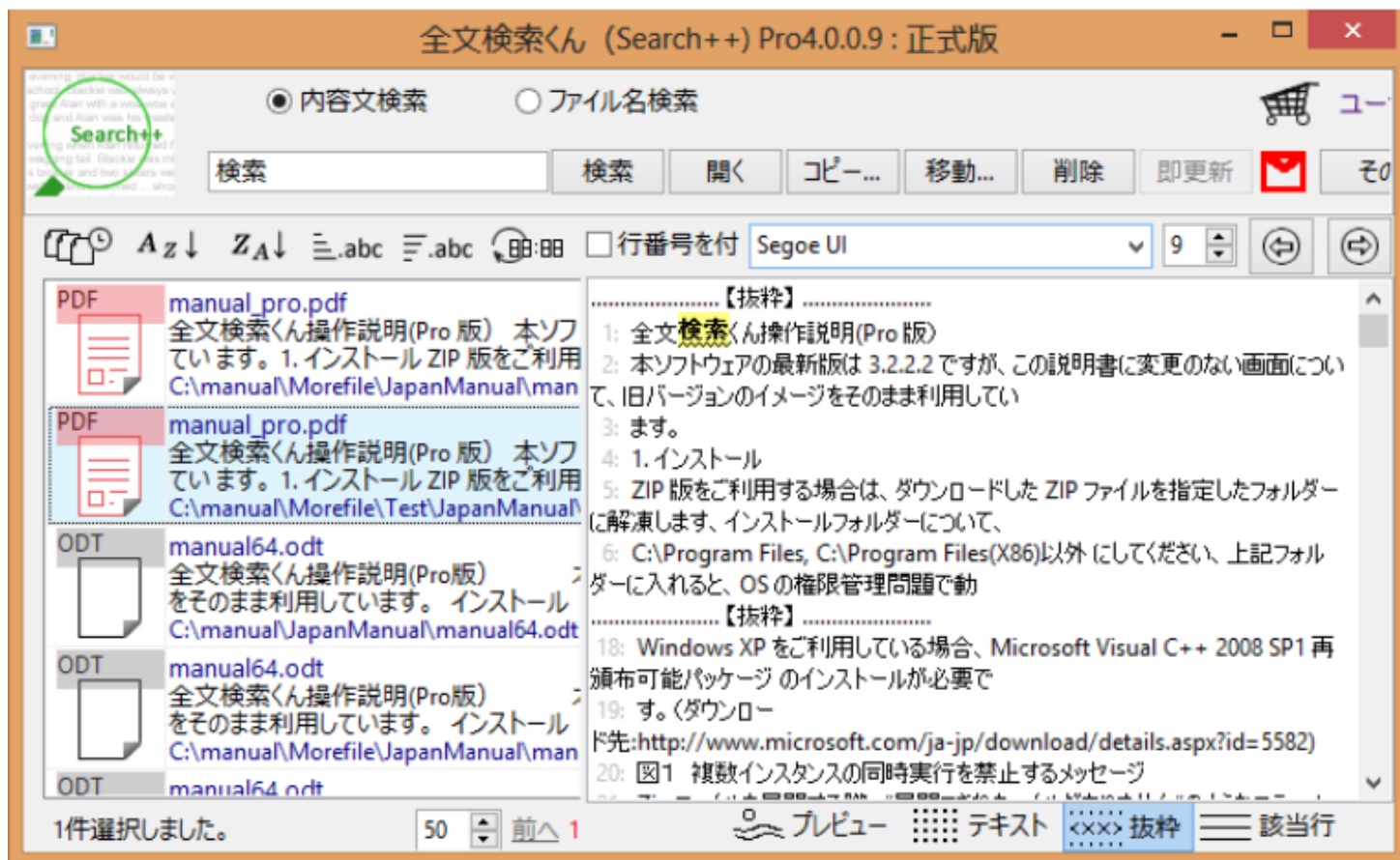


図9 検索結果画面

メイン画面について、サイズ、左右ペインのサイズを調整可能です。全文検索くんを起動すると、前回設定した画面のサイズ、左右ペインの割合に戻ります。

## 5. 検索画面に対しての操作

画面の上部にチェックボックスがあり、内容文に対しての検索あるいはファイル名に対しての検索が選択できます。検索キーワードを入力して、Enterキーを押すか「検索」ボタンを押すと、検索が実行されます。

検索結果リストのファイルにフォーカスを当てると、マッチ行の前後文章が表示されます（いわゆる抜粋表示機能）、↑ ↓ キーを押せば、ファイルを切り替えて表示します。ファイルを選択した状態で、「開く」、「コピー」、「移動」、「削除」ボタンを押すと、ファイルを開いたり、コピー、移動、削除ができます。

画面右下にある「プレビュー」、「テキスト」、「抜粋」、「該当行」をクリックすると、内容を表示したり、該当ファイルのテキスト内容を表示したり、該当行前後内容（抜粋）だけを表示したり、該当行だけを表示したりします。

ファイル名検索の場合、テキストビューだけを表示します。

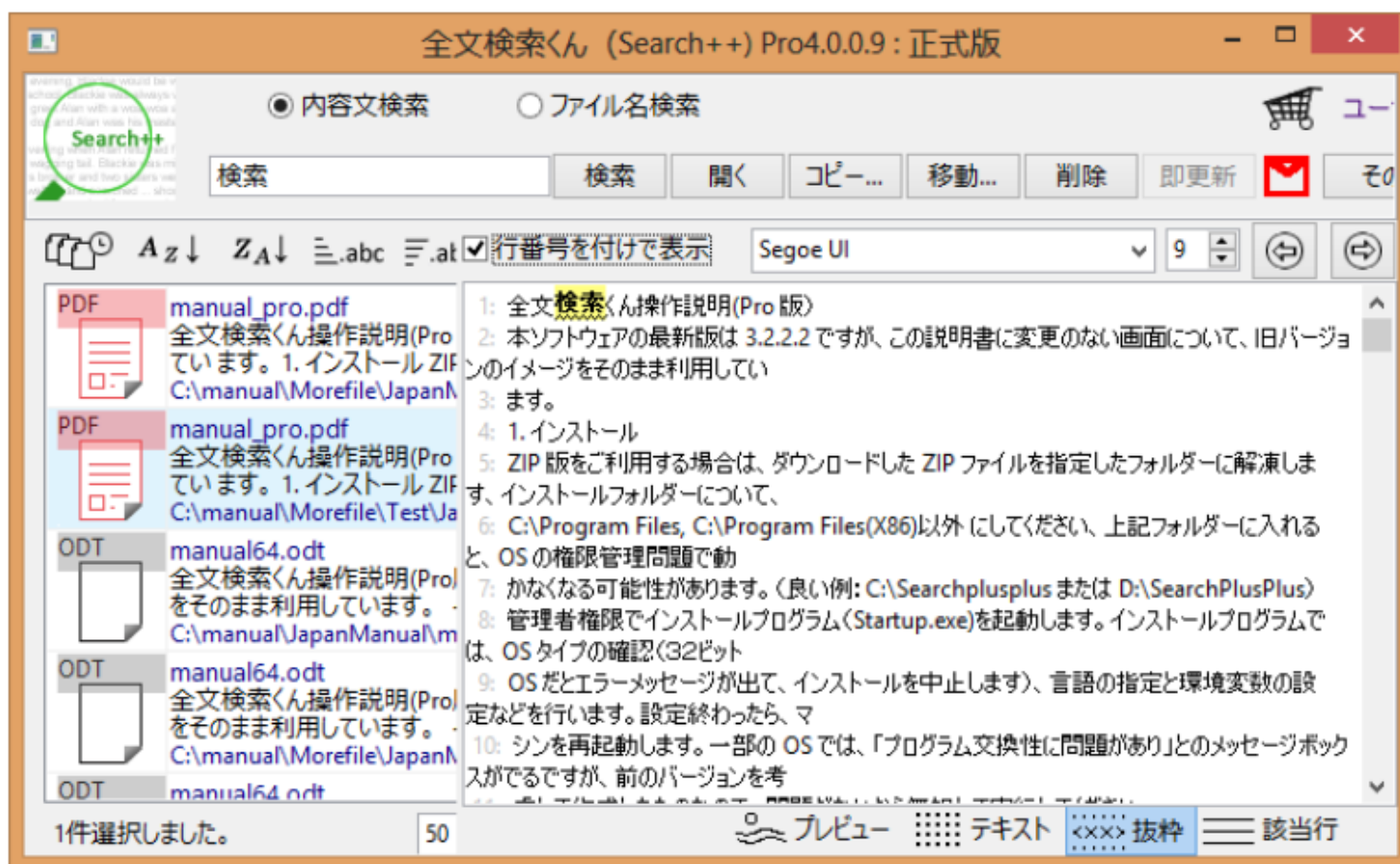


図 1 0 番号付テキスト内容の表示画面

該当ファイルのアイコンをダブルクリックするか下の「該当行」ボタンをクリックすることによって、マッチした行が表示されます。

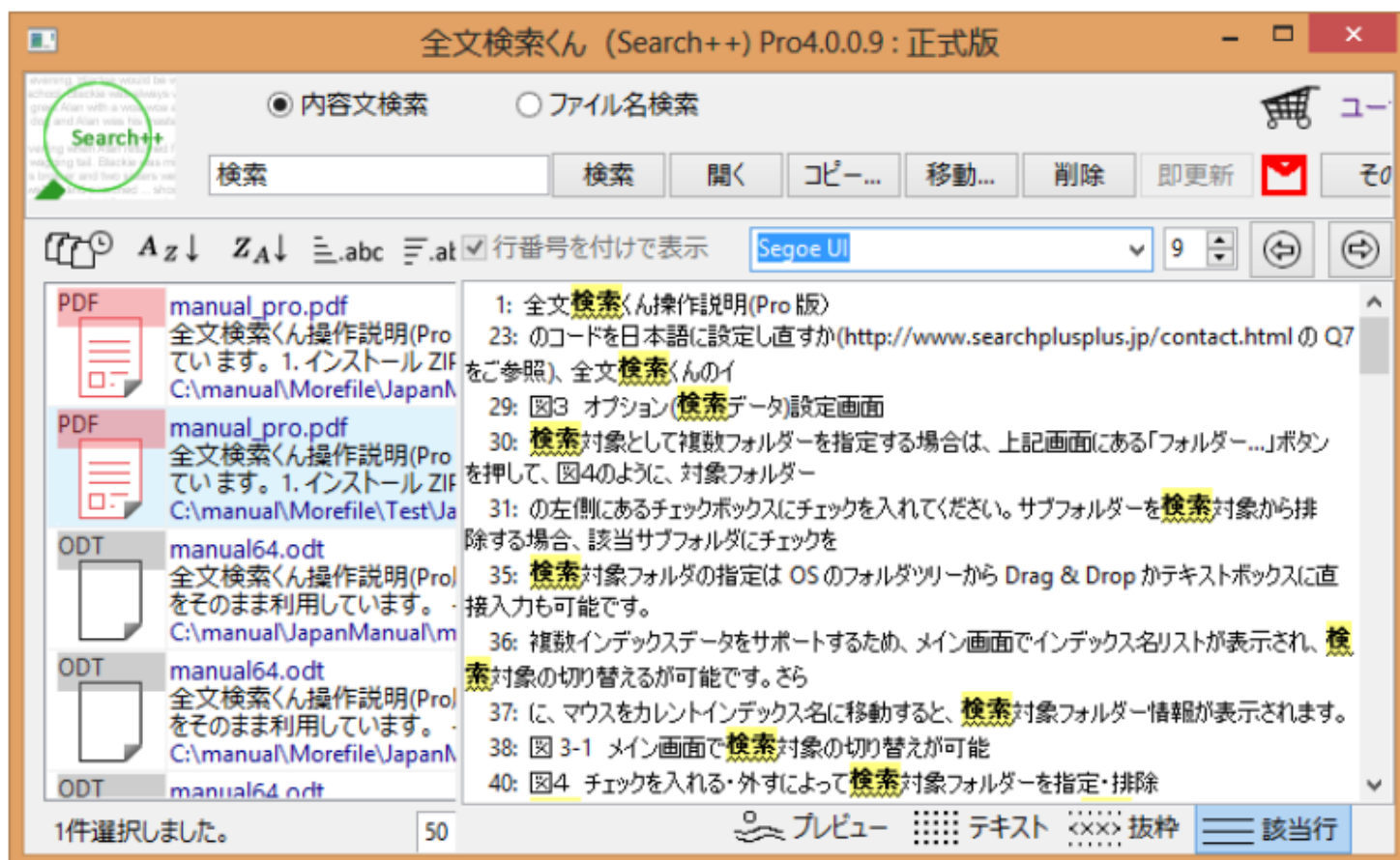


図 1 1 マッチした行の表示画面

左側のペインにある情報列(第三列)をダブルクリックすると、OS 上関連プログラムが立ち上がり、該当ファイルを開きます。(関連プログラム情報が無い場合は、なにも動きません。さらに、サードパーティーの関連プログラムと連携して、ファイルを開いた場合即座に検索する機能も実現しました、詳細は後述をご参照ください)

右マウスをクリックしたら、ポップアップメニューが出て、カレントファイルに対して、「該当行まで検索」機能、「テキスト内容表示」機能のほか、ファイル名をクリップボードにコピーする機能、該当フォルダーを開く機能、外部関連プログラムで開く機能もあります。さらに「ヘッダの表示・非表示」メニューによってテーブルのヘッダを表示させたり非表示させたりできます。ヘッダ表示した場合、コラムの幅を調整することができます。





図 1 2 右メニュー

検索結果ファイルリストにあるファイルに対して、外部プログラムで開いたり、テキスト内容を表示させたり、該当行まで検索させたりすると、該当ファイルは最近使用したファイルリストに入ります。ツールバーの一番左のアイコンをクリックすると、最近使用したファイルリストの確認ができます、最大 30 個までとしますが、30 個を超える場合、リストに一番最初の古いものが消されます。リストからファイルを選択して、検索ボタンを押すと、メイン画面に遷移して、前の条件で検索します。

## 最近使用したファイル

No.	ファイル名	検索キー	インデックス名	タイプ
1	C:\manual\JapanManual	Manual	追加アイテム	ファイル名検索
2	C:\manual\JapanManual\ImportGuidePro.odt	簡単	追加アイテム	内容文検索
3	C:\manual\JapanManual\ImportGuide.pdf	"Windows Vista"	追加アイテム	内容文検索
4	C:\manual\JapanManual\ImportGuide.odt	Searchplusplus	追加アイテム	内容文検索
5	C:\manual\JapanManual\manual2.xdw	解凍	追加アイテム	内容文検索
6	C:\manual\JapanManual\Readme.txt	画面 システム 設定	追加アイテム	内容文検索
7	C:\manual\JapanManual\ebook_manual.pdf	画面 システム 設定	追加アイテム	内容文検索
8	C:\manual\JapanManual\電子書籍.doc	画面 システム 設定	追加アイテム	内容文検索
9	C:\manual\JapanManual\manual.doc	画面 システム 設定	追加アイテム	内容文検索
10	C:\manual\JapanManual\manual.jtd	画面 システム 設定	追加アイテム	内容文検索
11	C:\manual\JapanManual\ImportGuidePro.pdf	画面 システム 設定	追加アイテム	内容文検索
12	C:\manual\JapanManual\manual_pro.pdf	画面 システム 設定	追加アイテム	内容文検索
13	C:\manual\JapanManual\manual_pro - Copy.pdf	画面 システム 設定	追加アイテム	内容文検索
14	C:\manual\JapanManual\manual.pdf	検索 w4 画面	追加アイテム	内容文検索

検索

OK

### 図 1 3 最近使用したファイルリスト

## 6. 実行モード

本ツールの実行モードは二つあります、非常駐モードと常駐モードです。

非常駐モードでは、OS に常駐しませんし、OS 起動時にも起動しません。非常駐モードでは、検索するたびに、前回インデックスデータの作成時間を提示し、インデックスを更新するかどうかユーザの判断を仰ぐことになります。非常駐モードでは、メイン画面の「即更新」ボタンを押したら、前回インデックスデータ作成時点でのファイル情報と現時点のものを比べて、インデックスデータを最新化します。

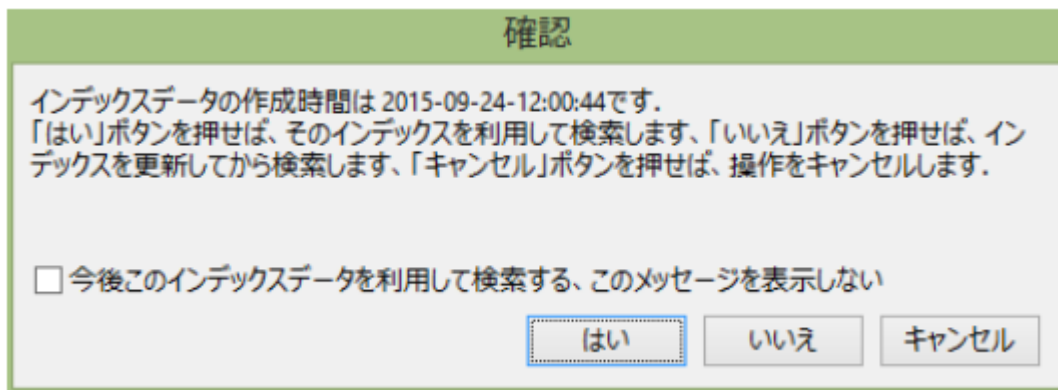


図 1 4 非常駐モードで検索したら、前回インデックスデータの作成時間を提示します

常駐モードではシステムトレイに入って、OS から検索対象フォルダーにファイルの変更などのお知らせがあれば、該当対象ファイルを変更対象リストに入れて、指定したインデックス化処理時点で対象リストのファイルをインデックス化します。インデックス化処理時点の指定はオプション画面の「その他」タブ画面で設定できます。「手動更新」に設定した場合、メイン画面の「即更新」ボタンを押すと、処理対象リストのファイルをインデックス化します。

常駐モードでは、OS 起動時にプログラムが起動します。



図 1 5 常駐モード（トレイモードとも呼ばれます）

常駐モードでは、図 1 6 - A、図 1 6 - B のように処理状態は吹き出し Tooltip と Tooltip 両方で表示されます。

マウスをシステムトレイに全文検索くんのアイコンに移動していただければ Tooltip で状態を確認することができます。





図 1 6 – A 吹き出し Tooltip で実行状態などを表示します

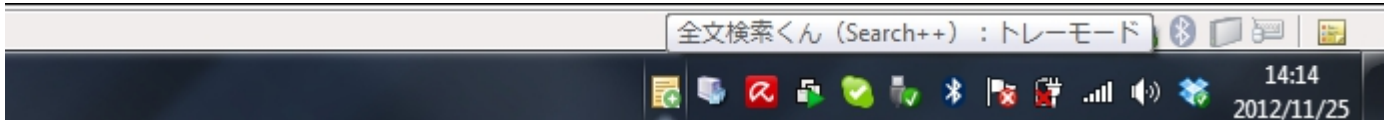


図 1 6 – B Tooltip で実行状態などを表示します。

トレイアイコンに右クリックしたら、下記画面が表示され、以下の機能が利用できます。

- 1) 検索画面（図 7 のメイン画面）を開くこと
- 2) 実行状態を確認すること
- 3) インデックス作成プロセス、検索プロセスを中止させること
- 4) インデックスを再作成すること
- 5) 本ツールを終了させること

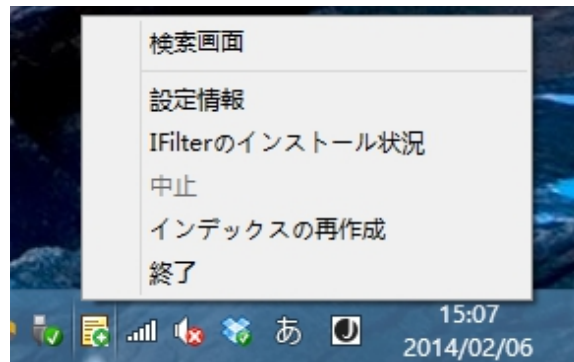


図 1 7 トレーアイコンの右メニュー

また、検索画面（メイン画面）を開くには、ユーザが設定画面で設定したホットキーで行えます。

二つモードの切替は前述の「図 1 オプション設定画面」で「OS 開始時自動的に起動し、常駐させ、インデックスデータを常に更新する」オプションをオンまたはオフにすれば実現できます。

## 7. 外部プログラムで開く

図 6 の検索画面で三列目の「ファイル情報列」をクリックするか、図 1 2 の右メニューの三番目「外部プログラムで開く」か四番目「開くと同時に検索」をクリックするかによって、外部関連プログラムで該当ファイルを開くことができます。

PDF ファイル、Excel ファイル、Word ファイル、Powerpoint ファイルに対して、「外部プログラムで開く」と「開くと同時に検索」機能

能を実現しました、前者の場合、ファイルを開くだけですが、後者の場合ファイル開いたら検索をかけます。

PDF ファイルの場合は、該当箇所のテキストをハイライトしますが、Excel ファイル、Word ファイル、PowerPoint ファイルの場合は、青色で表示します。この機能を利用するには、PDF ファイルの場合、PDF Xchange Viewer または Adobe Reader のインストールが必要です、。Excel、Word、Powerpoint ファイルの場合、MS Office のインストールが必要です。

上記の機能改善は前述のファイルタイプに限って、かつ、検索キーが単一キーの場合だけに適用されます。複数キーの場合はファイルを開くだけになります。

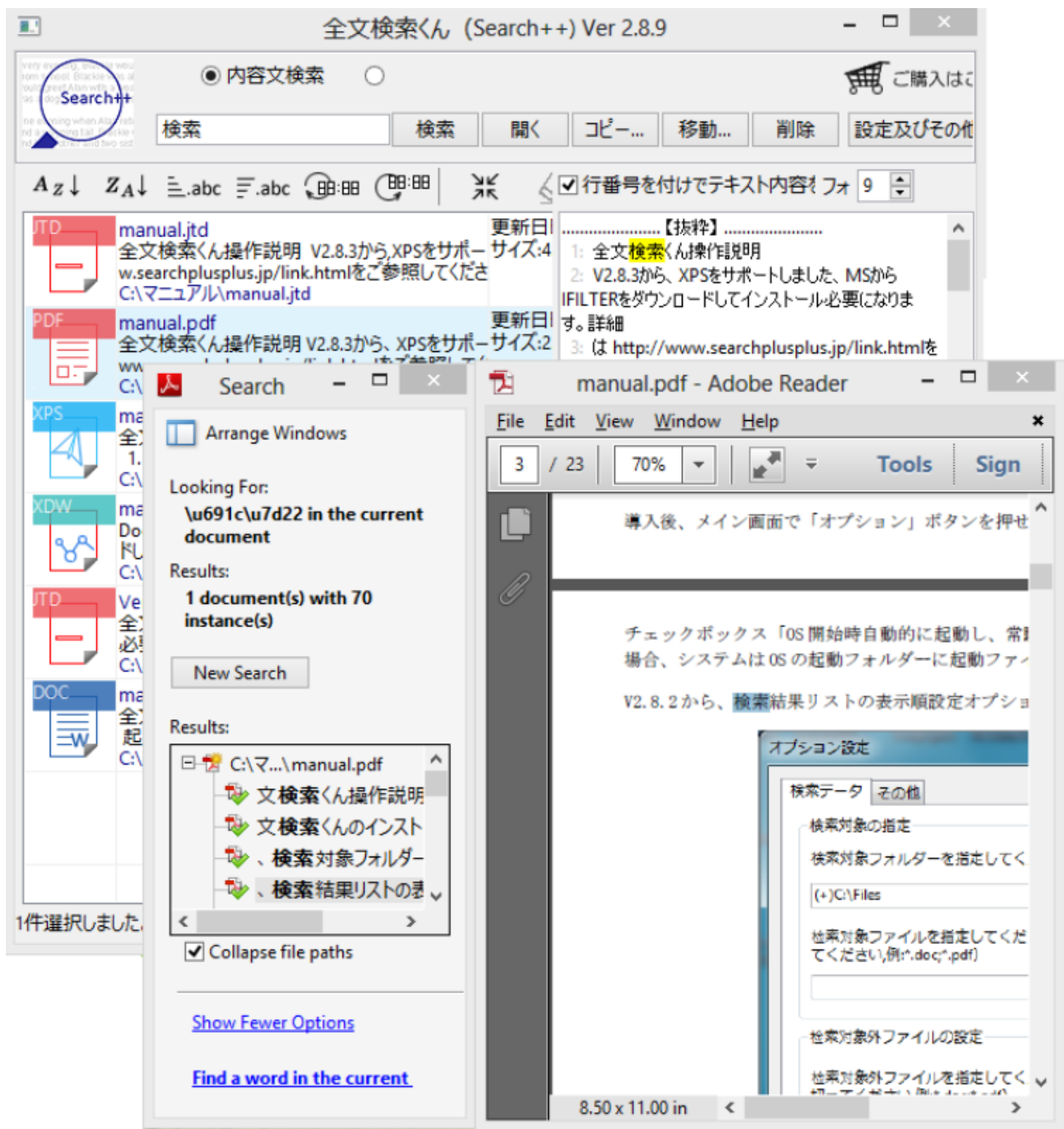


図 1 8 - 1 外部プログラムで PDF ファイルを開きます

PDF に対して、ページ情報の解析ができ、マウスをクリックした場所のページまで開くことが可能です。詳細手順は以下です。

- 1) メイン画面左の画面の検索結果リストで PDF ファイルを選択します。

- 2) 右下の「テキスト」ボタンをクリックします。
- 3) 右側のテキスト表示領域で右マウスをクリックすると、「カレントページを開く」メニューが表示されます。
- 4) 「カレントページを開く」メニューをクリックして、マウスポイントが当たった場所の該当ページを開きます。

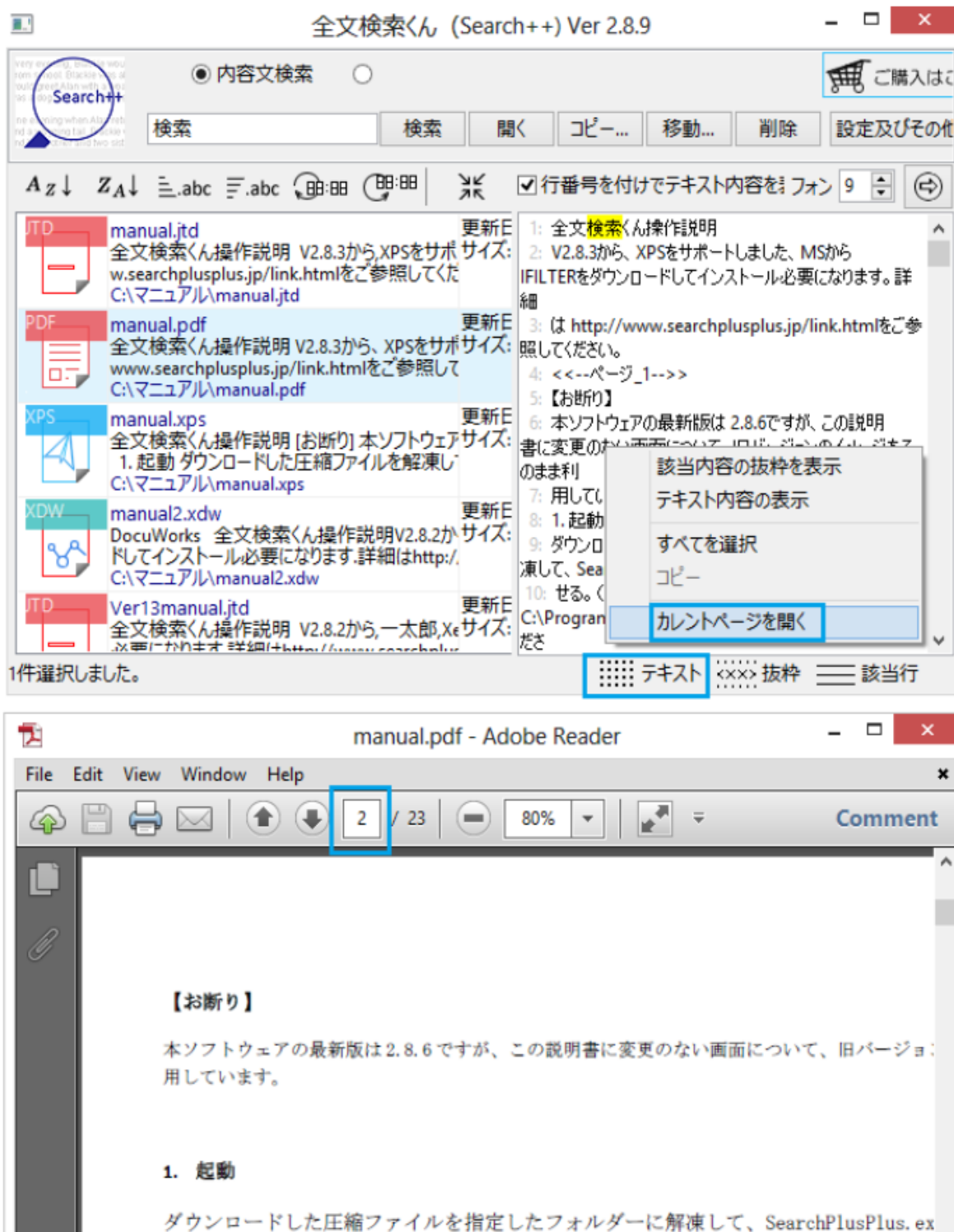


図 1 8 - 2 外部プログラムで PDF ファイルの指定ページを開きます

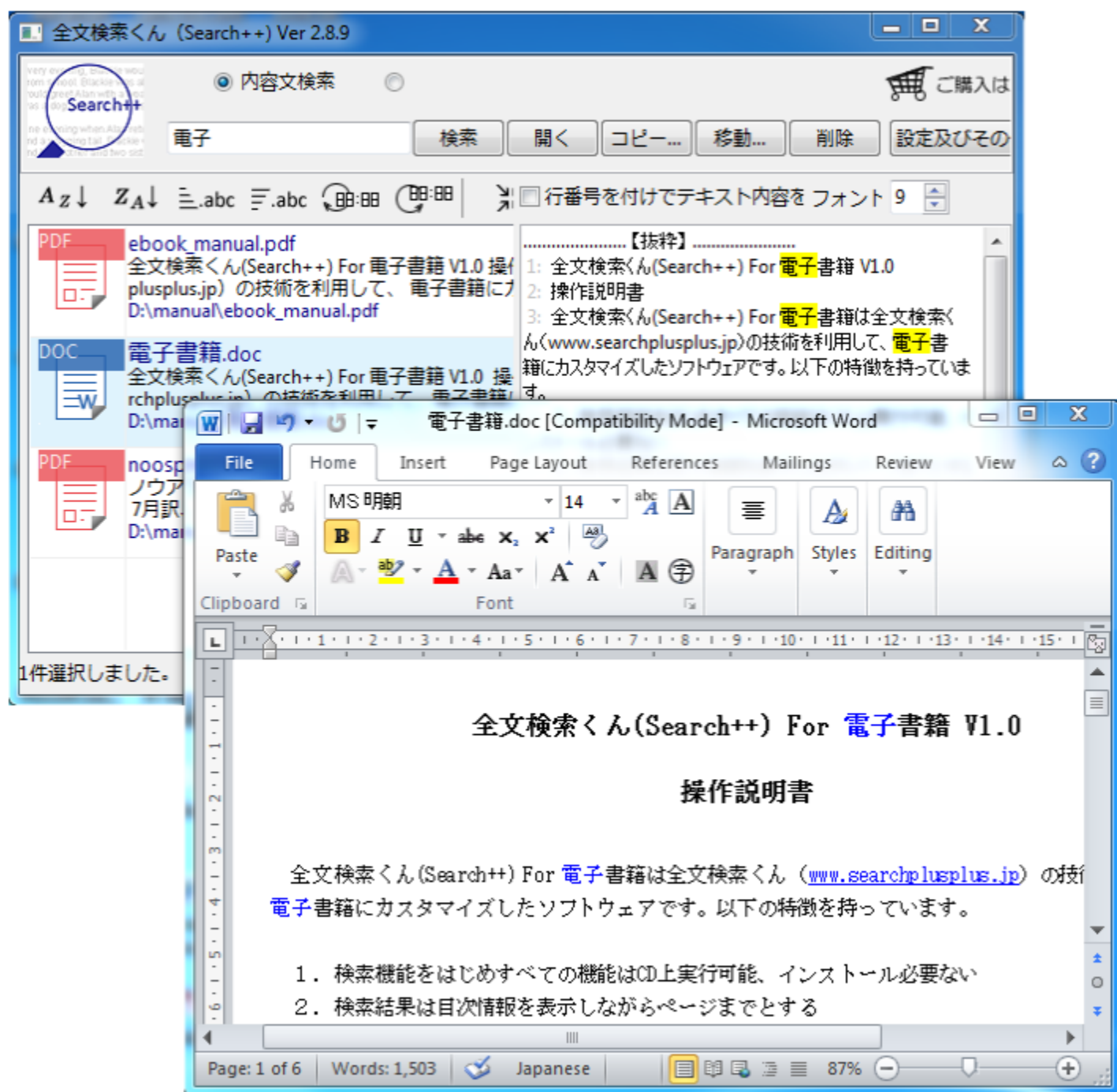


図 1 9 外部プログラムで Word ファイルを開きます（該当文字は青色で表示されます）

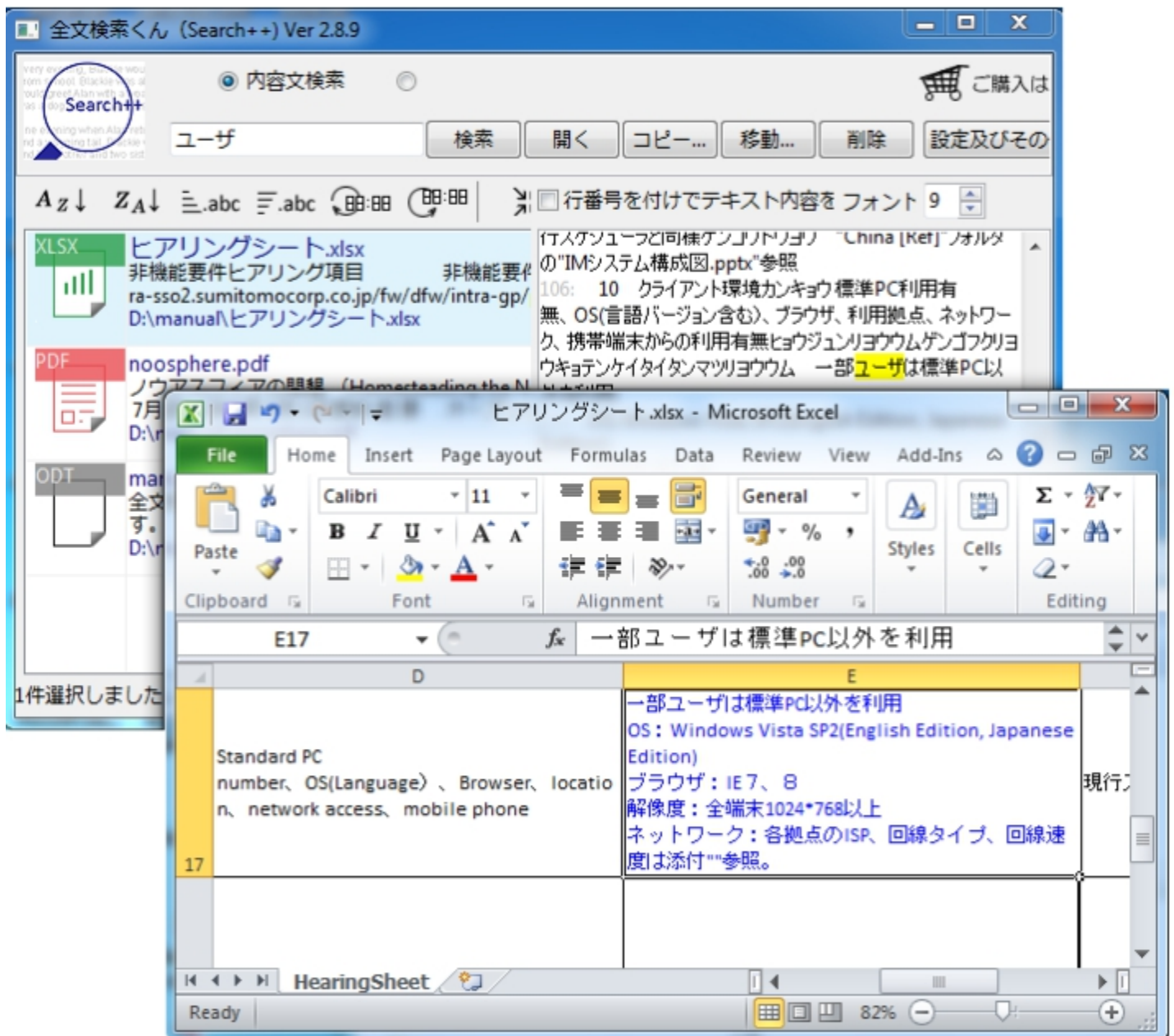


図 2.0 外部プログラムで Excel ファイルを開きます（該当セルは青色で表示されます）



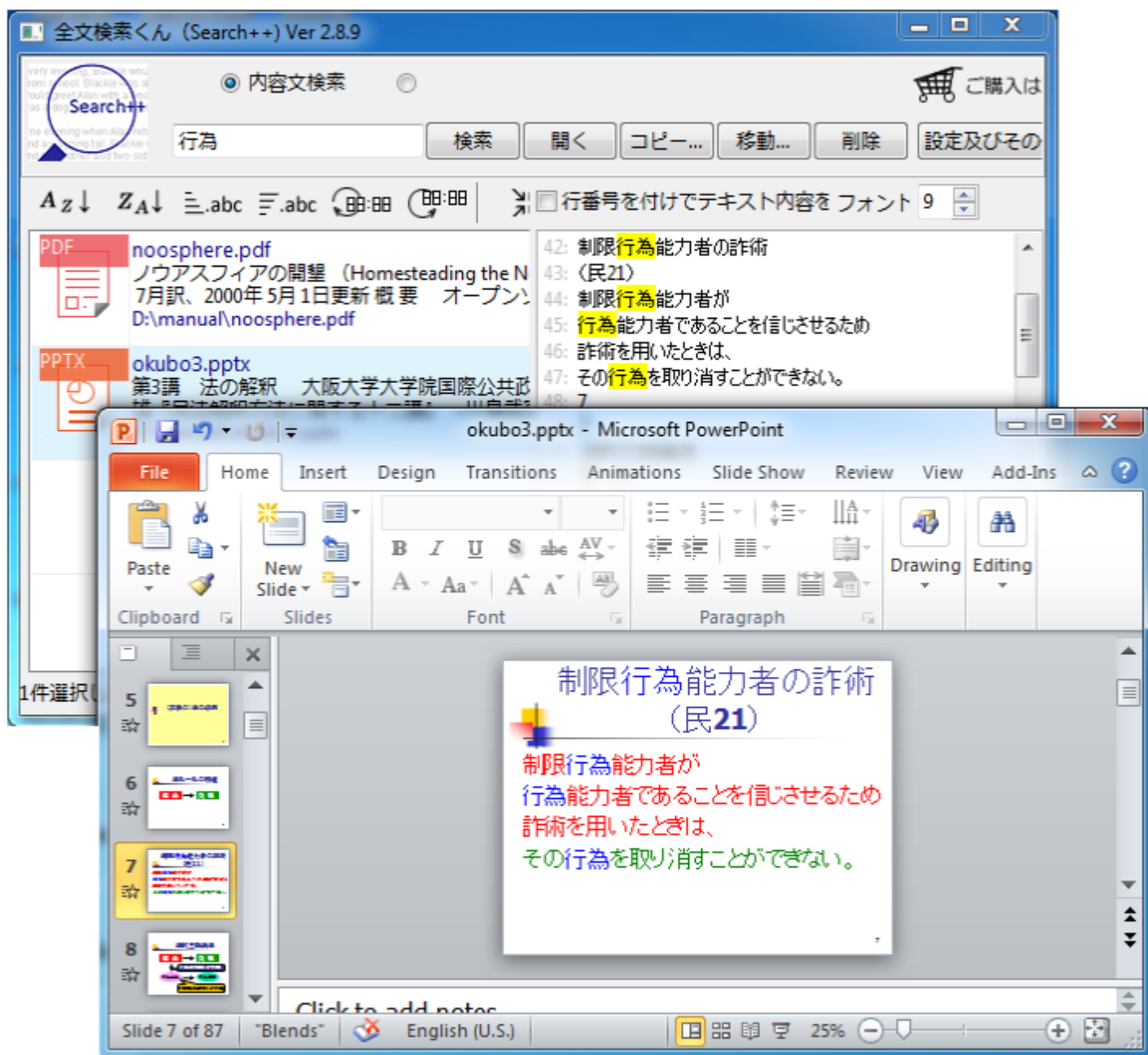


図 2 1 外部プログラムで PowerPoint ファイルを開きます（該当文字は青色で表示されます）

## 8. 検索キーについて

複数検索キーの指定が可能です。複数検索語の場合、論理演算子 AND/OR を使用することになります。デフォルトの場合は AND として処理しますが、「インデックス」→「オプション設定」メニューで設定の切り替えが可能です。



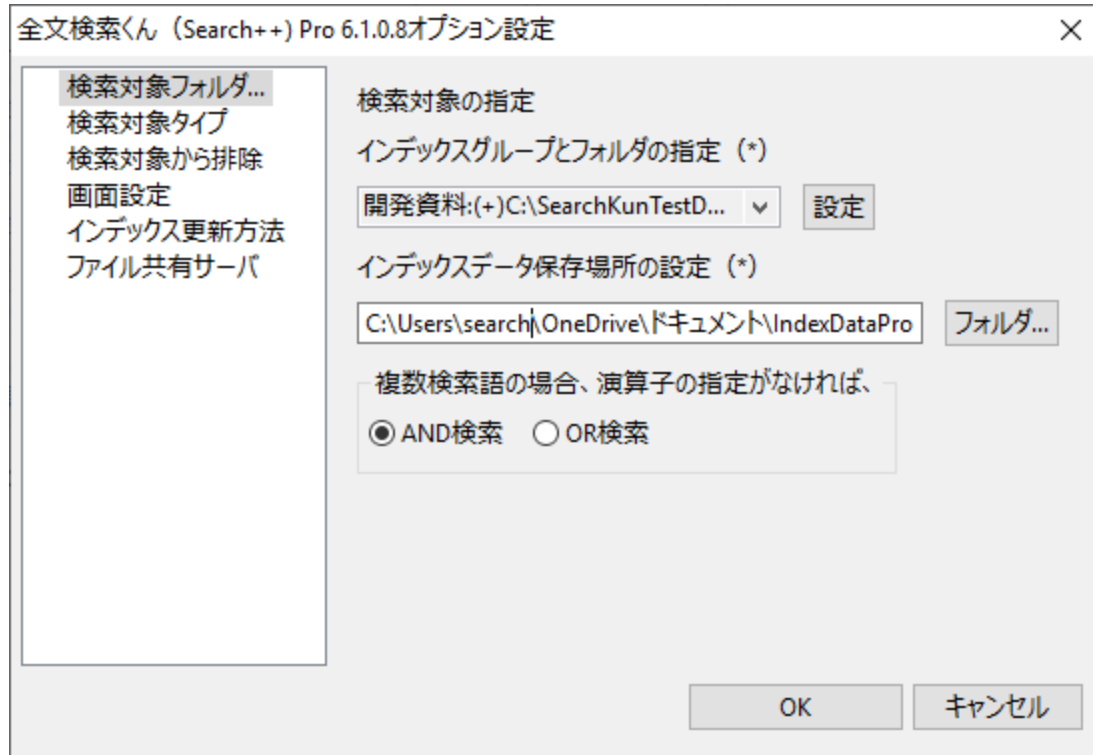


図 2 0 論理演算子の設定

AND または OR で直接入力して検索する場合、論理演算子として認識され検索を行います。

近傍検索機能を実現しました。単語と単語の距離を検索条件として指定することで、より関連度の高い情報に絞り込むことができる検索方法を「近傍検索機能」と呼びます、近傍検索機能は特許業界でよく使われているようです。

下記画面のように検索キーワードとキーワードの間に単語の数を指定すれば、関連度の高い情報を検索できます。

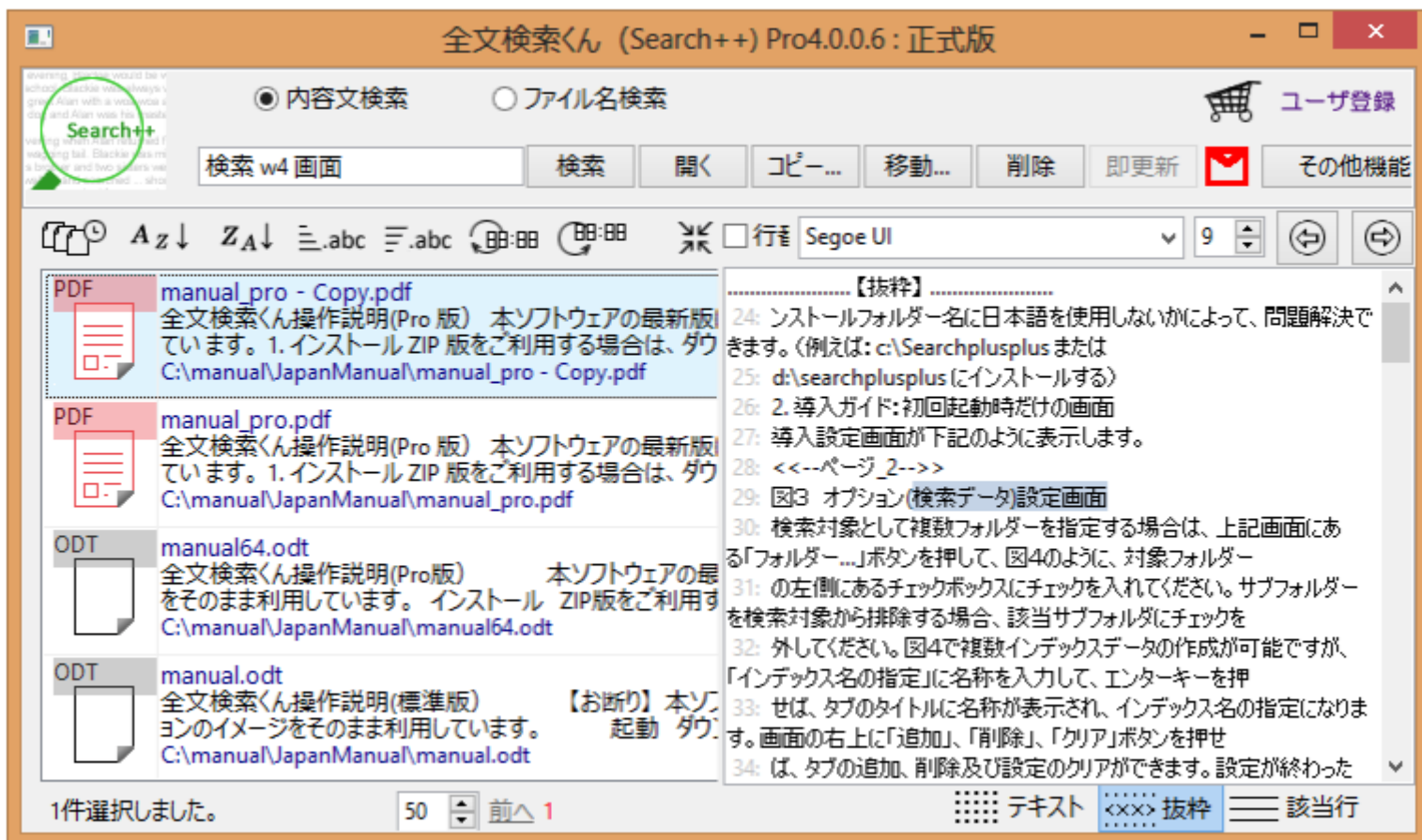


図 2 1 近傍検索

検索キーに\*を入れると、前方一致検索になります。

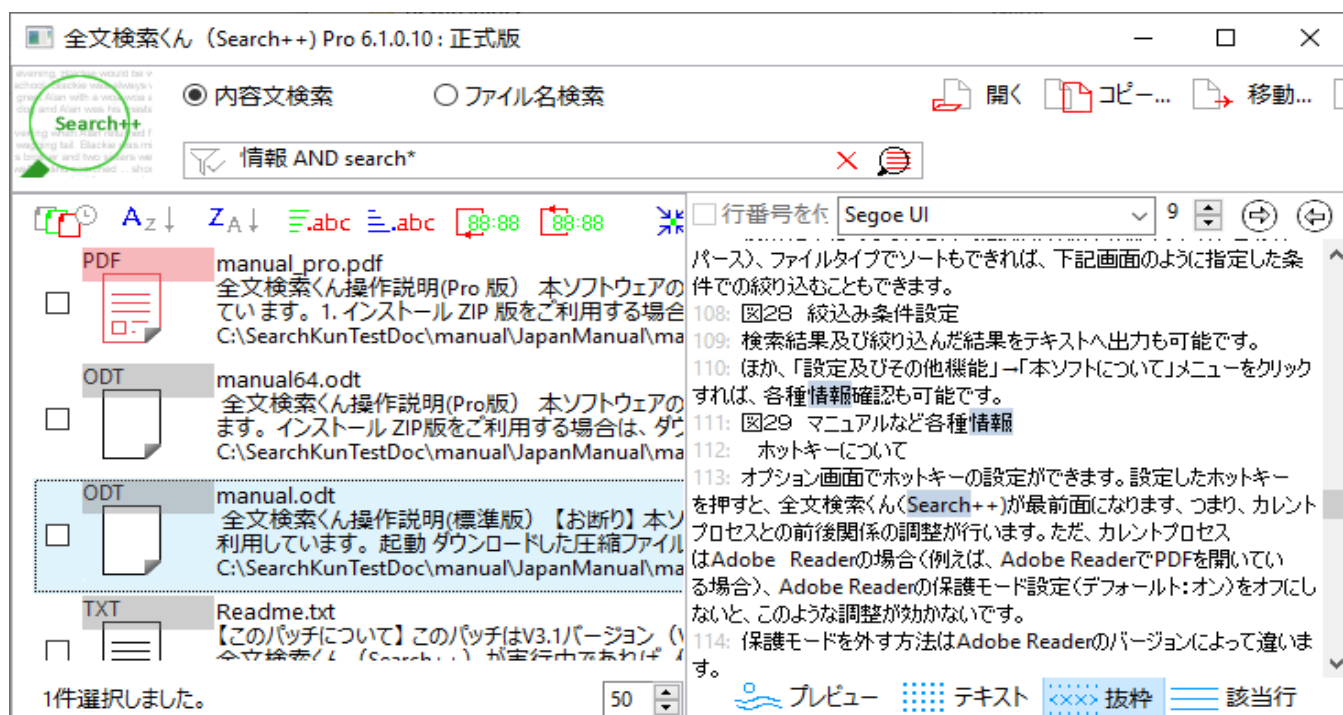


図 2 2 前方一致検索

## 9. 抜粋表示機能

該当内容の抜粋表示機能は、マッチした行の前後数行を表示する機能です。表示行数を増やしたい場合、オプション画面で表示する行数の変更が可能です。

「テキスト」ビュー、「抜粋」ビュー、「該当行」ビューいずれの画面に右クリックすると、メニューが出てきます。お互いに遷移することができます。かつ、マウスでクリックした行は遷移先のビューに存在していると、その行を判りやすくようにマークします。

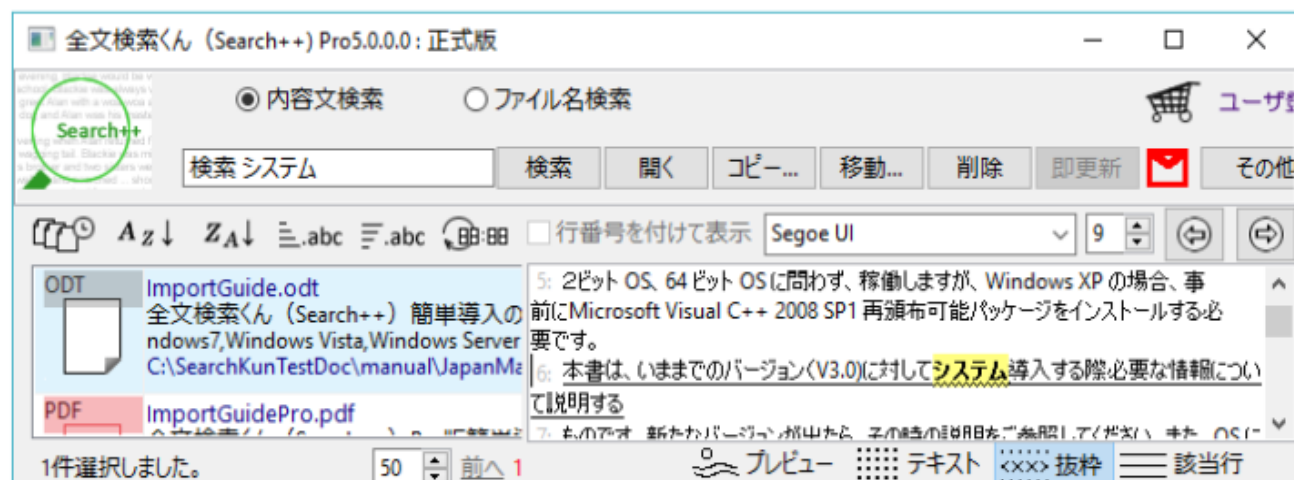
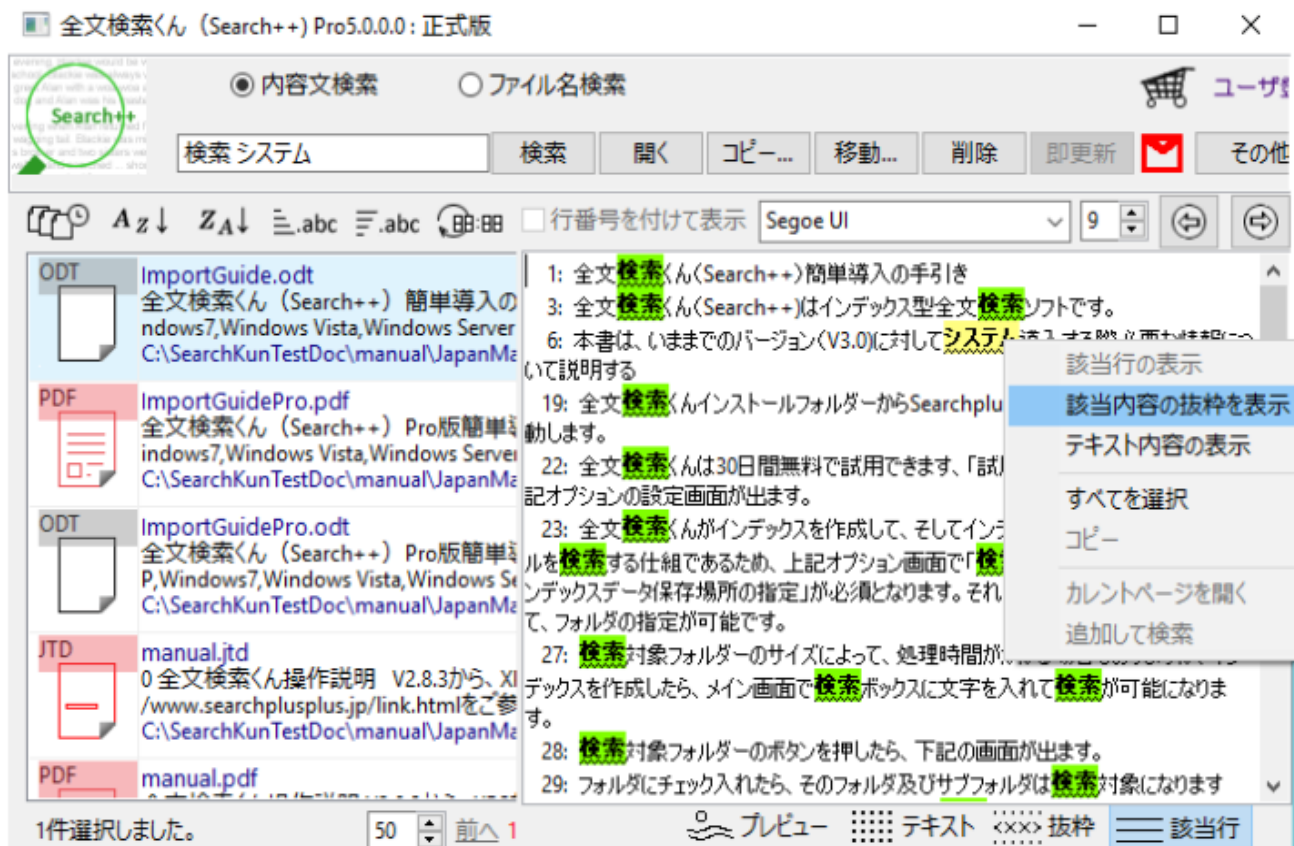


図 2 3 抜粋表示機能

## 10. その他ソート機能及び絞込み機能



図 2 4 - A 絞り込み条件設定

上記画面の絞り込みボタンを押すと、絞り込みダイアログが表示され、ファイルタイプ、更新時間、サブフォルダなど絞り込み条件の設定が可能になります。

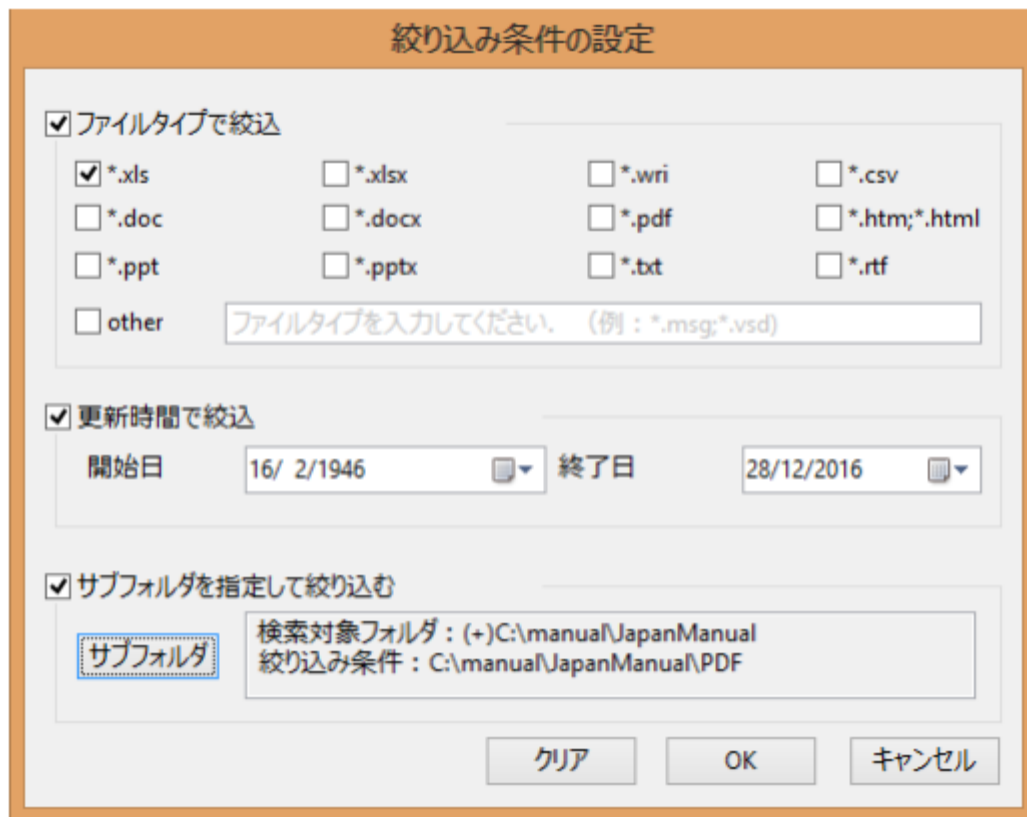


図 2 4 - B 絞り込み条件設定

一方、検索結果リストにあるファイルまたはフォルダをチェック入れて対象として絞り込み検索が可能です。

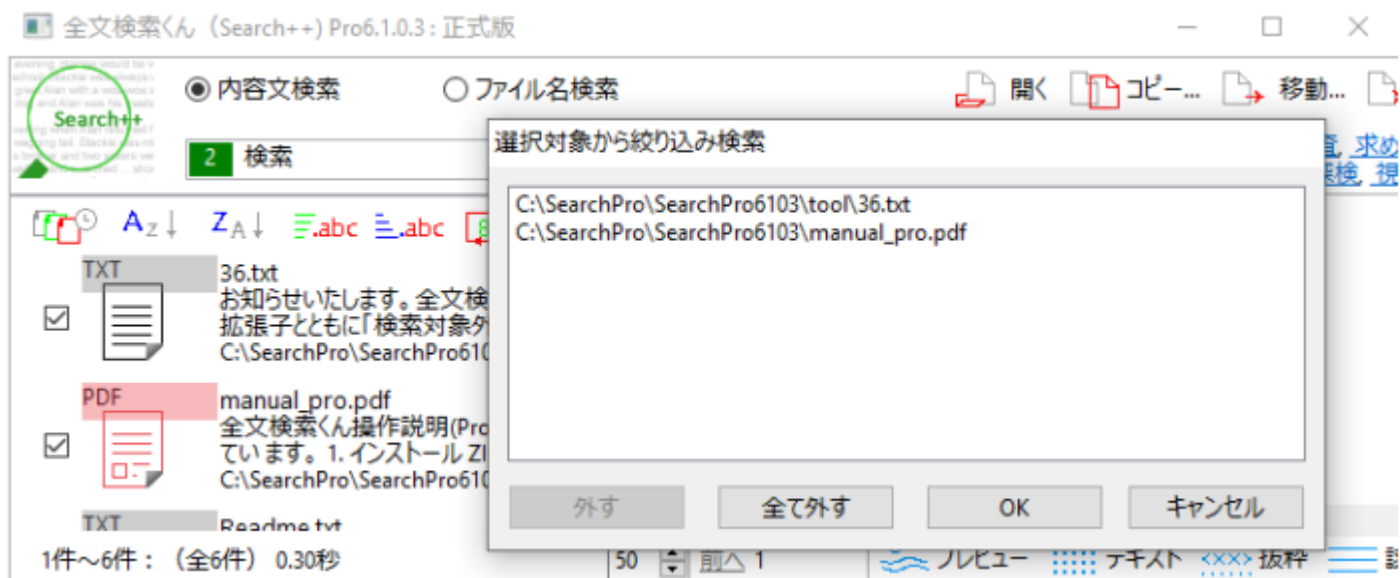


図 2 5 検索ファイルリストからさらに絞り込んで検索

検索テキストボックスの左側のアイコンに選択対象ファイル数は表示され、検索語を入れて検索すると、これらを対象として絞り込み検索になります。このアイコンをクリックすると、絞り込み検索対象ファイル設定ダイアログが表示され、絞り込み検索対象から外すことが可能です。

ほか、「設定及びその他機能」→「本ソフトについて」メニューをクリックすれば、各種情報確認も可能です。



図 2 6 マニュアルなど各種情報



## 11. ホットキーについて

オプション画面でホットキーの設定ができます。設定したホットキーを押すと、全文検索くん（Search++）が最前面になります、つまり、カレントプロセスとの前後関係の調整を行います。ただ、カレントプロセスは Adobe Reader の場合（例えば、Adobe Reader で PDF を開いている場合）、Adobe Reader の保護モード設定（デフォルト：オン）をオフにしないと、このような調整が効きません。

保護モードを外す方法は Adobe Reader のバージョンによって違います。

Reader X 以下では「編集」メニュー>「環境設定」の「一般」タブを選んで、「起動時に保護モードを有効にする」をオフにする必要があります。

Reader XI では「編集」メニュー>「環境設定」の「セキュリティ（拡張）」タブを選んで、「サンドボックスによる保護」領域で、「起動時に保護モードを有効にする」をオフにしてください。

## 12. アンインストール機能

アンインストールの場合、同梱のツール（ZIP 版：DeleteTool.exe、インストーラ版：uninstall.exe）をクリックしてください。

正式版をアンインストールする際、自動的に認証解除を行います。WinXP の場合、アンインストール機能のご利用には [Microsoft Visual C++ 2008 SP1 再頒布可能パッケージ](http://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=5582) のインストールが必要です。（ダウンロード先：<http://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=5582>）

## 13. メモリ管理ツール

ファイルのサイズが大きいまたはファイルに画像などが大量にある場合、インデックス作成処理では、必要となるメモリ量がツールの最大メモリ値設定値を超え、下記画面が表示されます。該当ファイルを対象外にするか最大利用メモリを変更するかが選べます。何もしない場合、10 秒を経つと、該当ファイルをスキップします。



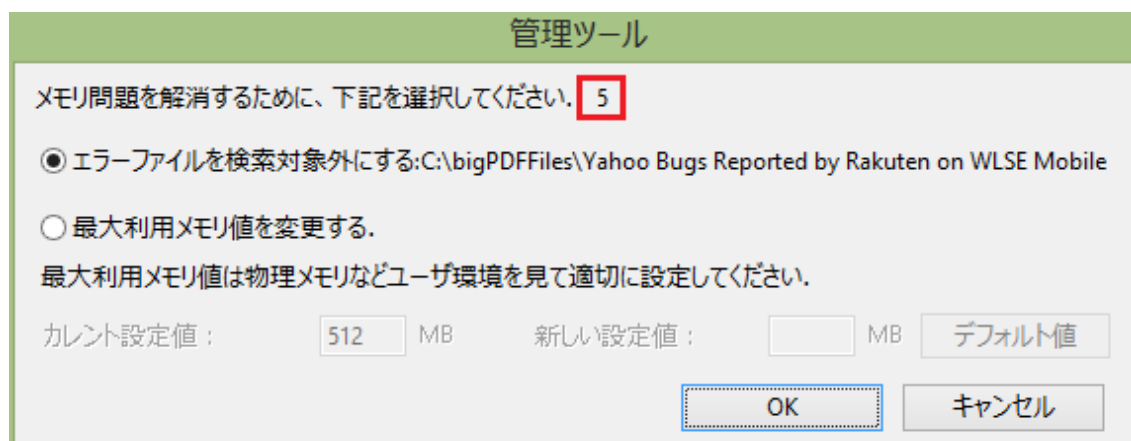


図 3 1 管理ツール

ただし、設定値が大きすぎ、システムの処理能力外になり、ツールが起動できなくなった場合には、このメモリ管理ツールを手動で起動させ、最大利用可能メモリを減らしたり、デフォルト値に戻したりすることもできます。メモリ管理ツールの手動起動には MemAdm.exe をクリックしてください。

#### 14. インデックスの作成、更新

インデックス作成はファイルの数によって、時間がかかる場合があります。その時、ユーザは一旦インデックスの作成を中止させることができます。

「インデックス」→「中止」メニューをクリックすれば、一旦中止になります。中止になるまでインデックス化処理済みファイルに対して、検索することができます。

中止後、本ソフトを再起動すれば、システムは中止させた場所を検知し、インデックス作成を再開します。

また、ファイルのサイズなどの原因で中断した場合、その後、メモリ管理ツール画面で利用可能メモリを増やしたり、エラーとなる対象ファイルをスキップしたりすることも可能です。

常駐モードでご利用している場合、全文検索くんはインデックス更新を自動的に行うことが可能です。図 5 で示したように「アイドル時間が続くと更新する」、「指定時刻で更新する」、「手動で更新する」のオプションがあります。「アイドル時間が続くと更新する」とは、指定したアイドル時間が続くと、全文検索くんはいままで OS から通知した変更があるファイルを対象にして、インデックスデータを更新します。「指定時刻で更新する」とは業務の忙しい時間帯を避けて、たとえば、お昼時間などを指定して、対象ファイルをインデックス化することです。「手動で更新する」とはユーザが自ら更新ボタン(メイン画面にある)を押して、インデックス更新を行うことです。これらの指定によって、CPU、メモリに負荷が重いインデックス化処理をアイドル時間を利用して実行可能となります。

さらに、指定時刻で更新する場合、自動シャットダウンも選択可能です。毎日夜中にインデックス更新を設定して、さらに自動シャットダウンオプションを付けると、インデックスデータを処理してから、「シャットダウンします」ようなメッセージが出て、10 秒以内にキャンセルをしなければ、シャットダウンを行います。

非常駐モードでメイン画面の「即更新」ボタンを押すと、インデックスデータ作成時点での対象ファイル情報と現時点での最新情報を比較して、変更のあるファイルを対象にインデックスデータを更新します。

社内 LAN で検索システムを構築する場合、インデックス更新処理がエージェントマシンに Windows サービスとして登録することが可能です。その時、Windows サービスの回復属性を設定するために管理者パスワードが必要です。インデックス更新処理にエラーが発生したら、全文検索くんのインストールフォルダ下の searchplusplus.log ファイルにエラー情報が出力されます。

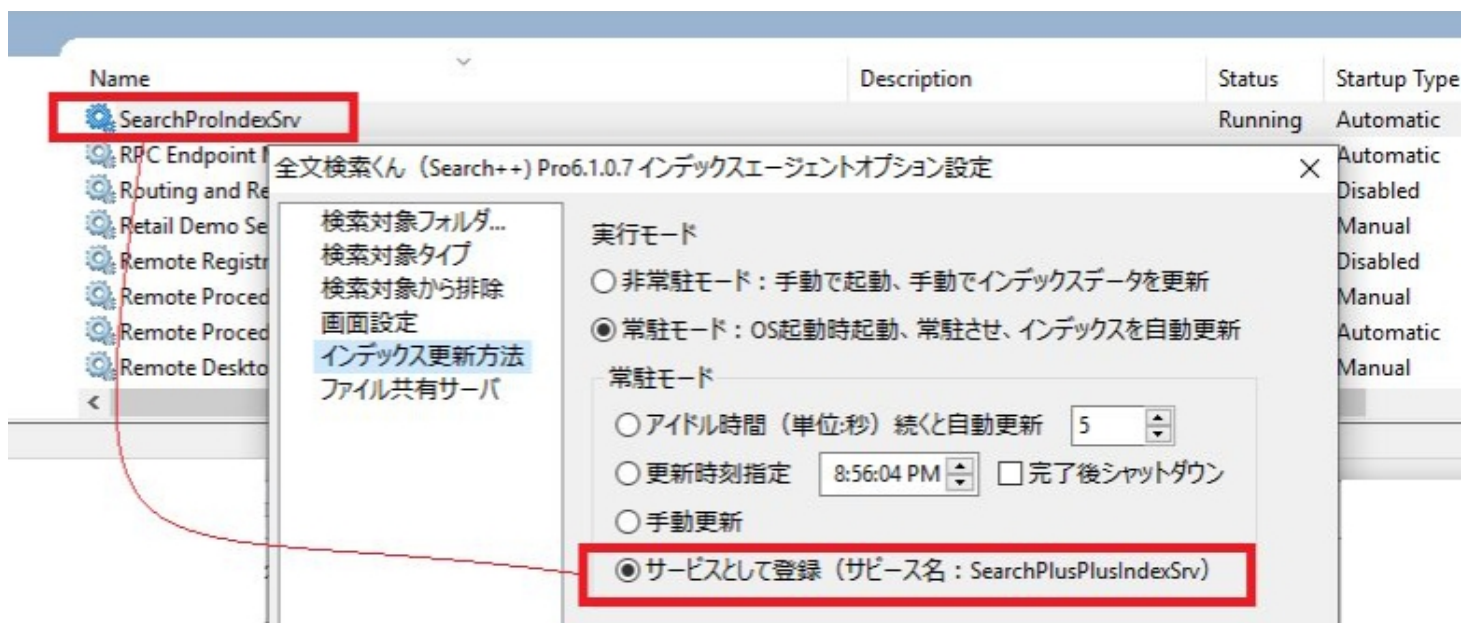


図 3 2 インデックス処理サービスの登録

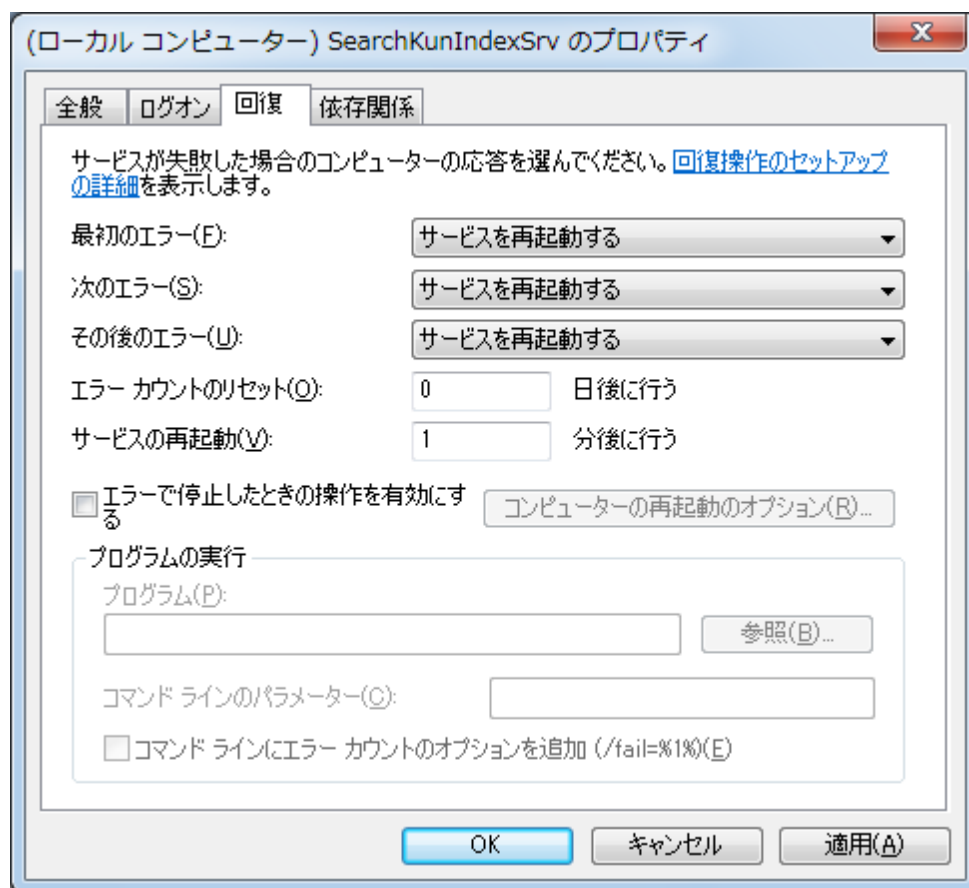


図 3 3 登録したインデックスサービスの属性：回復設定

## 15. IFilter 機能

IFilter をサポートします。それぞれの IFilter をインストールしたら、一太郎、Docuwork、縦書き PDF、XPS のの検索ができます。  
(IFilter のサポート情報及びダウンロード先は <http://www.searchplusplus.jp/link.html> を参照してください、  
config.xml の設定を変更する場合、全文検索くんを先に終了させる必要があります。)

同梱の IFilterStatus.exe をクリックすれば、全文検索くんの実行環境に上記 IFilter が入っているかどうかのチェックができます、  
入っていなければ、ダウンロード先のウェブサイトを開き、ダウンロード及びインストールをお願いします。この機能をメニューから起動  
させるには、「設定及びその他機能」メニューの「IFilter のインストール状況」サブメニューをクリックしてください。

WinXP の場合、この機能のご利用には [Microsoft Visual C++ 2008 SP1 再頒布可能パッケージ](http://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=5582) のインストールが必要です。  
(ダウンロード先:<http://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=5582>)

一太郎文章に対して、一太郎本体をインストールしてある場合は、IFILTER で検索できない文章でも、一太郎本体の機能を利用  
して、インデックスデータを作成して、検索が可能です。ファイルの内容によって、一太郎フォントが認識できない場合は下記  
の画面がですが、「確認」ボタンを押したら、処理が進みます。

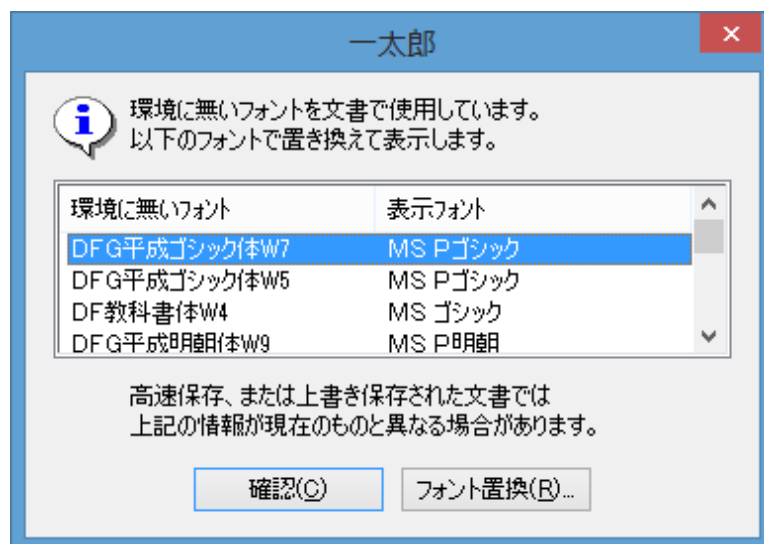


図 3 4 一太郎からの確認メッセージ

## 16. ファイルコピー・移動・削除

検索結果リストのファイルの右側メニュー領域に「コピー」、「移動」ボタンを押せば、コピー先・移動先の指定ができます。指定場所に同名ファイルが存在している場合、下記のダイアログが出て、上書きするかどうかを指定できます。

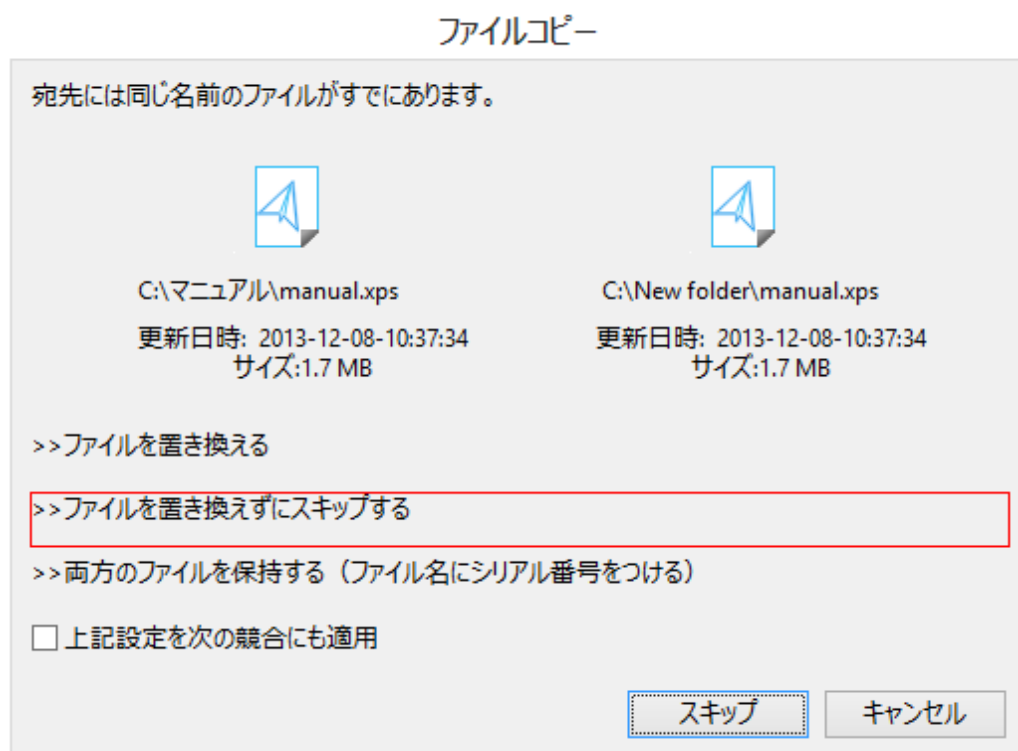


図 3 5 ファイルコピー、移動

## 17. ネットワーク認証

本ツールは1台のPCにつき1ライセンスが必要です。ライセンスを複数のPCで同時に共有することはできません。メイン画面の「認証」→「認証」ボタンを押して、ライセンスキーを押すと、ネットワーク認証を行います。

認証済みの場合、該当メニューは「認証解除」と変わって、認証の解除を行うことができます。認証解除したら、他のPCでライセンスを利用することが可能になります。ですので、OSを入れ替える時、まず認証を解除して、OSを入れ替えたあと、認証すると、新しいOSでライセンスの利用することが可能になります。

ネットワークに接続していない場合には、support@searchplusplus.jpにメールを送ってください、メールでの認証も受付ております。

標準版は32ビットOS・64ビットOSの両方をサポートしていますが、32ビットOSの制限で、アプリケーションの最大利用メモリは1GB以下に制限されています。Pro版では64ビットOSだけをサポートしています、32ビットOS上の1GBの制限がなくなり、ご利用PCのメモリは大きければ大きいほど、処理できるファイルがより大きいです。全文検索くんの最大利用メモリは同梱のMemadm.exeで設定できます。

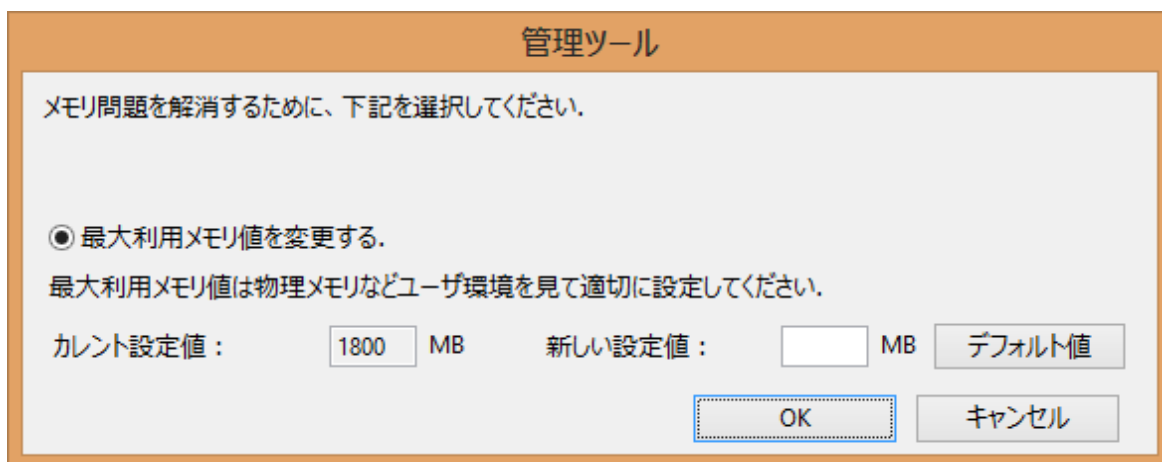


図 3 6 管理ツール

全文検索くんはデスクトップだけではなく、設定を変えれば、エージェント版またはクライアント版にもなります。LAN上ファイルサーバのシェアフォルダを利用して社内検索システム構築も可能です。ソフトウェア同梱の社内システム構築図.pdfをご参照ください。

## 18. ファイルシェア機能

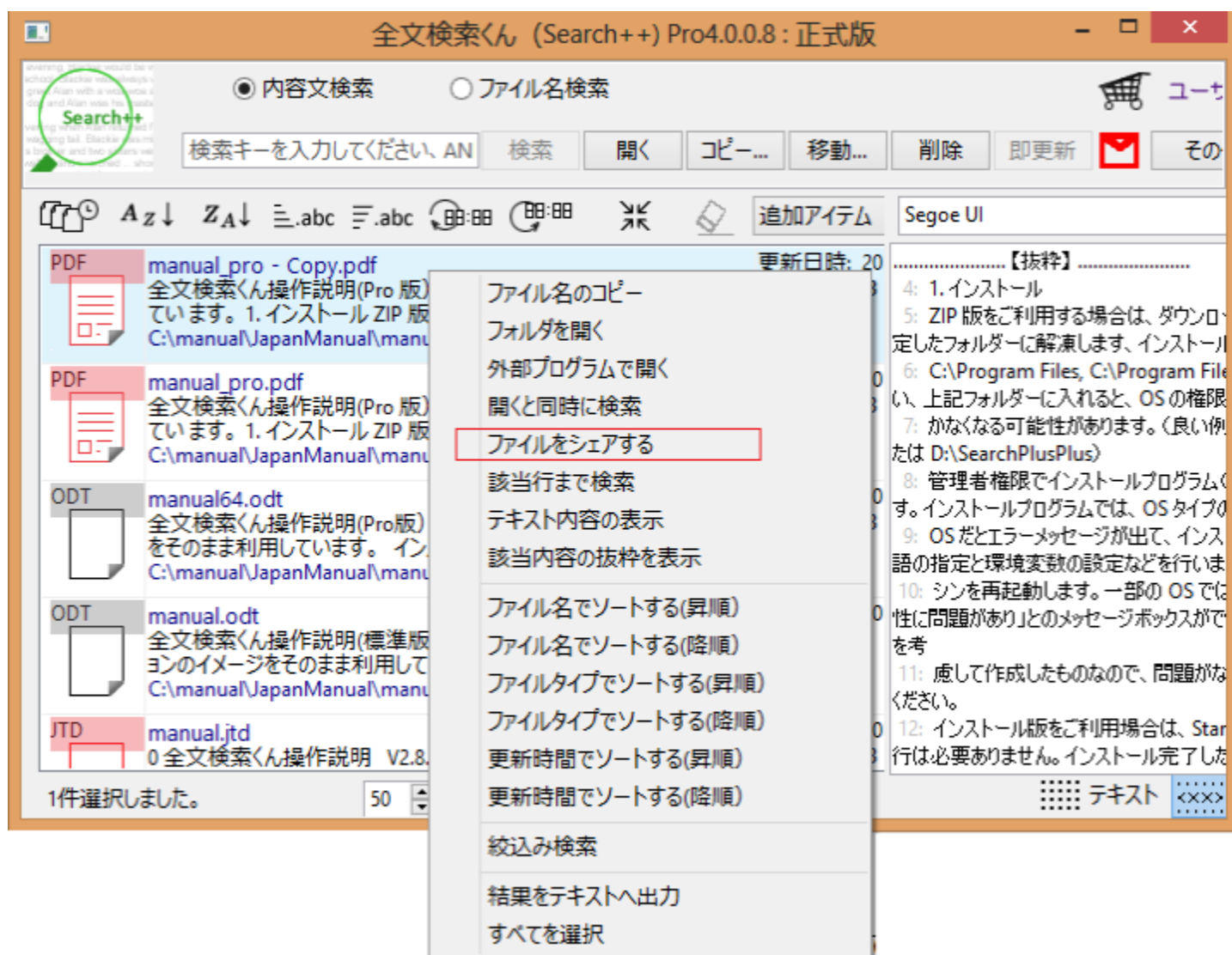


図 3 2 ファイルをシェアする機能

社内LANでファイルをシェアすることが可能です。メイン画面の検索結果リストに「その他」→「ファイルをシェアする」をクリックすると、シェアリンクを作成してコピーします。そのリンクを社内LANを利用するほかの方に送ると、ファイルをシェアすることになります。

この機能は全文検索くん中のHTTPサーバを利用しています。HTTPサーバを確認するには、メイン画面から「インデックス」->「オプション設定」メニュー->「ファイル共有サーバ」をクリックしてください。

本ツールの全機能に対して、同じマシンで30日間無料で試すことが可能です。導入日は使用期間の開始日になります。各種お問い合わせについては、support@searchplusplus.jpへお願いいたします。